

# FUJITSU Software Infrastructure Manager V2.6.0 Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.6.0



Plug-in and Management Pack セットアップガイド

> CA92344-3746-05 2021年3月

## まえがき

# 本書の目的

本書では、FUJITSU Software Infrastructure Manager Plug-in(以降、ISM Plug-in と呼称)、および、FUJITSU Software Infrastructure Manager Management Pack(以降 ISM Management Packと呼称)のインストール方法、製品の取り扱い方法、および、ご使用に際して特に注意すべき事項や参考となる情報を説明します。

FUJITSU Software Infrastructure Manager(以降、「ISM」と表記)はサーバーやストレ ージなどの ICT 機器からファシリティー機器(PDUなど)までを統合的に管理、運用する 運用管理ソフトウェアです。ISM Plug-in および、ISM Management Pack は、各種仮想化 管理ソフトのユーザーインターフェイスを拡張し、仮想化管理ソフト上で ISM の各種機能 を提供するためのプラグインソフトウェアです。本製品を導入することにより、仮想化管理 ソフトから ISM を直接利用できます。

ISM Plug-in 名	対応する仮想化管理ソフトウェア	
Infrastructure Manager Plug-in for	Microsoft System Center Operations	
Microsoft System Center Operations	Manager (SCOM)	
Manager (ISM Plug-in for SCOM)		
Infrastructure Manager Plug-in for	Microsoft System Center Virtual	
Microsoft System Center Virtual	Machine Manager (SCVMM)	
Machine Manager (ISM Plug-in for		
SCVMM)		
Infrastructure Manager Plug-in for	VMware vCenter Server (vCenter)	
VMware vCenter Server (ISM Plug-in		
for vCenter)		
Infrastructure Manager Plug-in for	VMware vCenter Server Appliance	
VMware vCenter Server Appliance	(vCSA)	
(ISM Plug-in for vCSA)		
Infrastructure Manager Management	VMware vRealize Operations Manager	
Pack for VMware vRealize Operations	(vROps)	
Manager (ISM Management Pack)		

本書で扱う ISM Plug-in、および対応する仮想化管理ソフトウェアは以下のとおりです。

ISM Plug-in 名	対応する仮想化管理ソフトウェア	
Infrastructure Manager Plug-in for	VMware vCenter Server Appliance	
VMware vRealize Orchestrator (ISM	VMware vRealize Orchestrator (vRO)	
Plug-in for vRO)		
Infrastructure Manager Plug-in for	Microsoft Windows Admin Center	
Microsoft Windows Admin Center (ISM	(WAC)	
Plug-in for WAC)		

# 製品マニュアル

マニュアル名称	説明	
FUJITSU Software	本製品を初めて使用する利用者向けのマニュア	
Infrastructure Manager V2.6.0	ルです。	
Infrastructure Manager for	本製品の製品体系/ライセンス、利用手順の概	
PRIMEFLEX V2.6.0	要について説明しています。	
入門書	マニュアル内では、『入門書』と表記します。	
FUJITSU Software	本製品の機能、導入手順、操作方法を説明した	
Infrastructure Manager V2.6.0	マニュアルです。	
Infrastructure Manager for	本製品の全機能、全操作を把握できます。	
PRIMEFLEX V2.6.0	MEFLEX V2.6.0 マニュアル内では、『解説書』と表記します。	
解説書		
FUJITSU Software	本製品の導入手順、利用シーンに応じた操作手	
Infrastructure Manager V2.6.0	順を説明したマニュアルです。	
Infrastructure Manager for	マニュアル内では、『操作手順書』と表記しま	
PRIMEFLEX V2.6.0	す。	
操作手順書		
FUJITSU Software	お客様が作成したアプリケーションと本製品を	
Infrastructure Manager V2.6.0	連携する際に必要な API の使用方法、サンプ	
Infrastructure Manager for	for ル、パラメーター情報などを説明したマ	
PRIMEFLEX V2.6.0	ニュアルです。	
REST API リファレンスマニュアル マニュアル内では、『REST API リファレン		
	マニュアル』と表記します。	

マニュアル名称	説明	
FUJITSU Software	ISM および ISM for PRIMEFLEX 使用時に出	
Infrastructure Manager V2.6.0	カされる各種メッセージの説明と、そのメッセ	
Infrastructure Manager for	ージに対しての対処方法について説明していま	
PRIMEFLEX V2.6.0	す。	
メッセージ集	マニュアル内では、『ISM メッセージ集』と表	
	記します。	
FUJITSU Software	ISM for PRIMEFLEX 使用時に出力される各	
Infrastructure Manager for	種メッセージの説明と、そのメッセージに対し	
PRIMEFLEX V2.6.0 ての対処方法について説明しています。		
メッセージ集	マニュアル内では、『ISM for PRIMEFLEX メ	
ッセージ集』と表記します。		
FUJITSU Software	管理対象機器のプロファイル作成の設定を行う	
Infrastructure Manager V2.6.0	際に選択する項目の詳細情報について説明して	
Infrastructure Manager for	います。	
PRIMEFLEX V2.6.0	マニュアル内では、『プロファイル管理機能プ	
プロファイル管理機能プロファイル	ロファイル設定項目集』と表記します。	
設定項目集		
FUJITSU Software	ISM for PRIMEFLEX で利用できるクラスタ	
Infrastructure Manager for	作成機能、クラスタ拡張機能の自動設定内容や	
PRIMEFLEX V2.6.0	各機能で使用されるクラスタ定義パラメーター	
クラスタ作成/拡張機能設定値一覧	について説明しています。	
	マニュアル内では、『ISM for PRIMEFLEX 設	
	定値一覧』と表記します。	
FUJITSU Software	本製品を使用するうえで理解が必要な用語の定	
Infrastructure Manager V2.6.0	義を説明した用語集です。	
Infrastructure Manager for	マニュアル内では、『用語集』と表記します。	
PRIMEFLEX V2.6.0		
用語集		

マニュアル名称	説明		
FUJITSU Software	Infrastructure Manager Plug-in の以下の機能		
Infrastructure Manager V2.6.0	について、インストールから利用方法までと注		
Infrastructure Manager for	意事項や参考情報を説明します。		
PRIMEFLEX V2.6.0	• Infrastructure Manager Plug-in for		
Plug-in and Management Pack セ	Microsoft System Center Operations		
ットアップガイド	Manager		
	Infrastructure Manager Plug-in for		
	Microsoft System Center Virtual Machine		
	Manager		
	Infrastructure Manager Plug-in for		
	VMware vCenter Server		
	• Infrastructure Manager Plug-in for		
	VMware vCenter Server Appliance		
	• Infrastructure Manager Management Pack		
	for VMware vRealize Operations		
	Manager		
	• Infrastructure Manager Plug-in for		
	VMware vRealize Orchestrator		
	• Infrastructure Manager Plug-in for		
	Microsoft Windows Admin Center		
	マニュアル内では、『ISM Plug-in/MP セット		
	アップガイド』と表記します。		

上記マニュアルと併せて、ISM に関する最新情報については、当社の本製品 Web サイトを 参照してください。

https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastru

管理対象の各ハードウェアについては、各ハードウェアのマニュアルを参照してください。 PRIMERGY の場合は、「ServerView Suite ServerBooks」、または PRIMERGY マニュア ルページを参照してください。

https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/

## 本書の読者

このマニュアルは、ハードウェアとソフトウェアについて十分な知識を持っているシステ ム管理者、ネットワーク管理者、ファシリティー管理者およびサービス専門家を対象とし ます。

## 本書の表記について

表記

キーボード

印字されない文字のキーストロークは、[Enter]や[F1]などのキーアイコンで表示さ れます。例えば、[Enter]はEnterというラベルの付いたキーを押すことを意味し、 [Ctr1]+[B]は、Ctr1またはContro1というラベルの付いたキーを押しながら[B]キーを 押すことを意味します。

罫線

特に注意すべき事項の前には、以下の罫線が付加されます。

## 🖳 ポイント

ポイントとなる内容について説明します。

**6**注意

注意する項目について説明します。

.....

......

変数:<xxx>

具体的な数値/文字列に置き換える必要のある変数です。 使用環境に応じた数値/文字列に置き換えてください。 例:<IPアドレス> 略称

本書では各製品名を以下の略称で記載します。

正式名称	略称
FUJITSU Software Infrastructure Manager	ISM
FUJITSU Software Infrastructure Manager	ISM Plug-in
Plug-in	
FUJITSU Software Infrastructure Manager	ISM Management Pack
Management Pack for VMware vRealize	
Operations Manager	
Microsoft® System Center Operations Manager	SCOM
Microsoft® System Center Virtual Machine	SCVMM
Manager	
Microsoft® Windows Admin Center	WAC
Microsoft® Windows Server® 2019 Datacenter	Windows Server 2019
Microsoft® Windows Server® 2019 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2016 Datacenter	Windows Server 2016
Microsoft® Windows Server® 2016 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2	Windows Server 2012 R2
Datacenter	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard	
VMware vCenter Server®	vCenter
VMware vCenter Server® Appliance™	vCSA
VMware vRealize® Operations Manager™	vROps
VMware vRealize® Orchestrator™	vRO

用語

本書で使用している主な略語および用語については、『Infrastructure Manager V2.6.0 用語集』を参照してください。

PDF表示アプリケーション (Adobe Readerなど) での操作について

PDF 表示アプリケーションで以下の操作を行った場合、表示アプリケーションの仕様 により、不具合(余分な半角空白の追加、半角空白の欠落、行末のハイフンの欠落、 改行だけの行の欠落など)が発生することがあります。

- · テキストファイルへの保存
- ・ テキストのコピー&ペースト

## 高度な安全性が要求される用途への使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・ 設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、 航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器シ ステムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が 確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフテ ィ用途」という)に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。お客様は 本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないで ください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お 客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびそ の関連会社は一切責任を負いかねます。

## 安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本 製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。また、本製品を安全にお使いいただく ためには、本製品のご使用にあたり各製品(ハードウェア、ソフトウェア)をご理解いただ く必要があります。必ず各製品の注意事項に従ったうえで本製品をご使用ください。本書は 本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

## 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともな うリバースエンジニアリングを行うことはできません。

## 免責事項

本製品の運用を理由とする損失、免失利益等の請求につきましては、いかなる責任も負いか ねます。本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

## 登録商標について

Microsoft、Windows、またはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。 VMware は VMware,Inc の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。 その他の会社名と各製品名は、各社の商標、または登録商標です。 その他の各製品は、各社の著作物です。

# 著作権表示

Copyright 2020 - 2021 FUJITSU LIMITED 本書を無断で複載・転載することを禁止します。

# 改版履歴

版数	作成年月	章・節・項	変更箇所	変更内容
01	2020 年 5 月	_	_	新規作成
02	2020年7月	-	まえがき	WACの情報を追記
		7章	ISM Plug-in for WAC 1.0.0	WACの記事を追記
03	2020 年 10 月	5. 4. 4	ISM ManagementPack を利用	TOP-20 ウィジェッ
			する	トの説明を追加
		1.3、2.3、	システム要件	システム要件の参照
		3.3、4.3、		先 URL を変更
		5.3,6.3,7.3		
		3. 4. 1, 4. 4. 1	インストールの準備	SameSite のデフォ
				ルト値の変更方法を
				追記
04	2021年2月	_	本書の目的	誤記修正
		_	本書の表記について	
		5.1	機能概要	
05	2021年3月	4.4.4	ISM Plug-in for vCSAに情	誤記修正
			報の登録をする	
		4.4.5	ISM Plug-in for vCSAに登	新規追加
			録した情報を更新する	

# 目次

まえがき	2
本書の目的	2
製品マニュアル	3
本書の読者	6
本書の表記について	6
高度な安全性が要求される用途への使用について	8
安全にお使いいただくために	8
改造等	8
免責事項	8
登録商標について	9
著作権表示	9
改版履歴	10
目次	
1. ISM Plug-in for SCOM 1.2.2	
	1.5
1.1 機能做安	
1.2 ハリケーシャカ谷 1.9 シッフテル 西州	
$1.3  \checkmark \land \land \land \lor \land \lor \land \lor \land \land \lor \land \land \land \lor \land \land \land \land$	
1.4 - 4 > 7 = 7 + 7 + 7 + 7 + 7 + 7 + 7 + 7 + 7 +	
1.4.1 インストールファイルを枚納する	10
1.4.2 インストールファイルを実行する	10
1.4.0 管理パックをインポートする	10
145 ISM Plug-in for SCOM に情報を登録する	17
1.4.6 ISM Plug-in for SCOM を利用する.	
15 アンインストール	19
1.6 留意事項	
	00
2. ISM Plug-In for SCVMM 1.2.2.	20
2.1 機能概要	
<b>2.2</b> パッケージ内容	
2.3 システム要件	
2.4 インストール	
2.4.1 インストールの準備	

2.4.2	インストールファイルを格納する	. 21
2.4.3	インストールファイルを実行する	. 21
2.4.4	コンソールアドインをインポートする	. 22
2.4.5	ISM Plug-in for SCVMMに情報を登録する	. 22
2.4.6	ISM Plug-in for SCVMM を利用する	. 23
2.5 アン・	インストール	. 23
2.6 留意	事項	. 24
3. ISM Plug	g-in for vCenter 1.3.3	25
3.1 機能相	既要	. 25
3.2 パック	ケージ内容	. 25
3.3 シスラ	テム要件	. 25
3.4 インス	ストール	. 26
3.4.1	インストールの準備	. 26
3.4.2	インストールファイルを格納する	. 28
3.4.3	インストールファイルを実行する	. 28
3.4.4	ISM Plug-in for vCenter に情報を登録する	. 30
3.4.5	Webブラウザーに ISMの SSL サーバー証明書をインストールする	. 32
3.4.6	ISM Plug-in for vCenter を利用する	. 33
3.5 アン・	インストール	. 34
3.6 留意	事項	. 34
4. ISM Plug	g-in for vCSA 2.0.0	35
4.1 機能机	既要	. 35
4.2 パック	ケージ内容	. 35
4.3 シスラ	テム要件	. 35
4.4 インス	ストール	. 35
4.4.1	インストールの準備	. 36
4.4.2	ISM にインストールファイルを格納する	. 38
4.4.3	ISM に ISM Plug-in for vCSAを適用する	. 38
4.4.4	- ISM Plug-in for vCSA に情報の登録をする	. 39
4.4.5	ISM Plug-in for vCSA に登録した情報を更新する	. 42
4.4.6	vCSAに ISM Plug-in for vCSA をインストールする	. 45
4.4.7	Webブラウザーに ISM の SSL サーバー証明書をインストールする	. 45
4.4.8	ISM Plug-in for vCSA を利用する	. 45
4.5 アン-	インストール	. 46
4.5.1	vCSAからプラグインをアンインストールする	. 46

4.5.2	ISM からプラグインを削除する	47
4.6 設定	のエクスポート	48
4.7 設定	のインポート	48
4.8 ログ	のエクスポート	49
4.9 留意	事項	50
5. ISM Ma	nagement Pack 1.4.0	51
5.1 機能	概要	51
5.2 パッ	ケージ内容	51
5.3 シス	テム要件	51
5.4 イン	ストール	51
5.4.1	インストールの準備	51
5.4.2	インストールファイルを実行する	52
5.4.3	ISM Management Pack に情報を登録する	52
5.4.4	ISM Management Pack を利用する	53
5.5 アン	インストール	55
5.6 留意	事項	55
6. ISM Plu	g-in for vRO 1.1.0	56
6.1 機能	概要	56
6.1 機能 6.2 パッ	概要ケージ内容	56 56
6.1 機能 6.2 パッ 6.3 シス	概要 ケージ内容 テム要件	56 56 56
6.1 機能 6.2 パッ 6.3 シス 6.4 イン	概要 ケージ内容 テム要件 ストール	56 56 56 56
6.1 機能 6.2 パッ 6.3 シス 6.4 イン 6.4.1	概要 ケージ内容 テム要件 ストール インストールの準備	56 56 56 56 56
6.1 機能 6.2 パッ 6.3 シス 6.4 イン 6.4.1 6.4.2	概要 ケージ内容 テム要件 ストール インストールの準備 インストール	56 56 56 56 56 58
6.1 機能 6.2 パッ 6.3 シス 6.4 イン 6.4.1 6.4.2 6.4.3	概要 ケージ内容 テム要件 ストール インストールの準備 インストール 手動インストール	56 56 56 56 56 58 60
6.1機能 6.2パッ 6.3シス 6.4イン 6.4.1 6.4.2 6.4.3 6.5ファ	概要 ケージ内容 テム要件 ストール インストールの準備 インストール 手動インストール ームウェアアップデートの実行方法	56 56 56 56 56 58 60 62
6.1機能 6.2パッ 6.3シス 6.4イン 6.4.1 6.4.2 6.4.3 6.5ファ 6.5.1	概要 ケージ内容 テム要件 ストール インストールの準備 インストール 手動インストール ームウェアアップデートの実行方法 ワークフローを開始して情報を登録する	56 56 56 56 58 60 62 62
6.1 機能 6.2 パッ 6.3 シス 6.4 イン 6.4.1 6.4.2 6.4.3 6.5 ファ 6.5.1 6.5.2	概要 ケージ内容 テム要件 ストール インストールの準備 インストール 手動インストール 手動インストール ームウェアアップデートの実行方法 ワークフローを開始して情報を登録する ワークフローを実行する	56 56 56 56 56 58 60 62 62 69
6.1 機能 6.2 パッ 6.3 シス 6.4 イン 6.4.1 6.4.2 6.4.3 6.5 ファ 6.5.1 6.5.2 6.5.3	概要 ケージ内容 テム要件	56 56 56 56 56 58 60 62 62 62 69 69
	概要 ケージ内容 テム要件	56 56 56 56 58 60 62 62 62 69 69 71
6.1機能 $6.2$ パッ $6.3$ シス $6.4$ イン $6.4.1$ $6.4.2$ $6.4.3$ $6.5$ ファ $6.5.1$ $6.5.2$ $6.5.3$ $6.5.4$ $6.5.5$	<ul> <li>概要</li> <li>ケージ内容</li> <li>テム要件</li> <li>ストール</li> <li>インストールの準備</li> <li>インストール</li> <li>手動インストール</li> <li>手動インストール</li> <li>ームウェアアップデートの実行方法</li> <li>ワークフローを開始して情報を登録する</li> <li>ワークフローを実行する</li> <li>ワークフローへ情報を追加登録する</li> <li>ワークフローの実行結果</li> <li>メッセージ</li> </ul>	56 56 56 56 56 58 60 62 62 69 69 71 74
6.1 機能 6.2 パッ 6.3 シス 6.4 イン 6.4.1 6.4.2 6.4.3 6.5 ファ 6.5.1 6.5.2 6.5.3 6.5.4 6.5.5 6.6 アン	<ul> <li>概要</li> <li>ケージ内容</li> <li>テム要件</li> <li>ストール</li> <li>インストールの準備</li> <li>インストール</li> <li>手動インストール</li> <li>手動インストール</li> <li>ームウェアアップデートの実行方法</li> <li>ワークフローを開始して情報を登録する</li> <li>ワークフローへ情報を追加登録する</li> <li>ワークフローの実行結果</li> <li>メッセージ</li> <li>インストール</li> </ul>	56 56 56 56 56 58 60 62 62 62 69 69 71 74 75
6.1機能 $6.2$ パッ $6.3$ シス $6.4$ イン $6.4.1$ $6.4.2$ $6.4.3$ $6.5$ ファ $6.5.1$ $6.5.2$ $6.5.3$ $6.5.4$ $6.5.5$ $6.6$ アン $6.7$ 留意	<ul> <li>概要</li></ul>	56 56 56 56 56 58 60 62 62 62 62 69 71 74 75
<ul> <li>6.1 機能</li> <li>6.2 パッ</li> <li>6.3 シス</li> <li>6.4 イン</li> <li>6.4.1</li> <li>6.4.2</li> <li>6.4.3</li> <li>6.5 ファ</li> <li>6.5.1</li> <li>6.5.2</li> <li>6.5.3</li> <li>6.5.4</li> <li>6.5.5</li> <li>6.6 アン</li> <li>6.7 留意</li> <li>7. ISM Plue</li> </ul>	<ul> <li>概要</li></ul>	56 56 56 56 58 60 62 62 62 62 69 71 74 75 75 76

7.2 パッ	ケージ内容	
7.3 シス	テム要件	
7.4 イン	ストール	
7.4.1	インストールファイルを格納する	
7.4.2	インストール	
7.4.3	ISM Plug-in for WACに情報を登録する	
7.4.4	Webブラウザーに ISM の SSL サーバー証明書をインストールする	
7.4.5	ISM Plug-in for WAC を利用する	
7.5 アン	インストール	80
7.6 留意	事項	80
8. 最新情	報	
付録 Web	<b>ブラウザー</b> に <b>SSL</b> サーバー証明書を設定する	82

# 1. ISM Plug-in for SCOM 1.2.2

## 1.1 機能概要

Infrastructure Manager Plug-in for Microsoft System Center Operations Manager (ISM Plug-in for SCOM) は、SCOM のユーザーインターフェイスを拡張し、SCOM 上で ISM の各種機能を提供するためのプラグインソフトウェアです。

本製品を導入することにより、SCOM から ISM を直接利用できます。

## 1.2 パッケージ内容

本製品を展開すると、下記3つのファイルに解凍されます。

- · ISMSCOM\_INSTALL.exe
- Readme.txt
- Readme\_en.txt

## 1.3 システム要件

ISM Plug-in for SCOM が動作する SCOM のシステム要件については、当社の本製品 Web サイトを参照してください。

<u>https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastr</u>

## 1.4 インストール

SCOM に ISM Plug-in for SCOM をインストールします。以下に、SCOM へのインストー ル手順を説明します。

## 1.4.1 インストールの準備

SCOM に ISM Plug-in for SCOM をインストールします。以下に、SCOM へのインストー ル手順を説明します。

## 関 ポイント

 以降の手順を実施する前に ISM Plug-in for SCOM をインストールする Windows Server へ OpenSSL をインストールしてください。インストールする OpenSSL のバ ージョンは、1.0.xを選択してください。

例:1.0.1a、1.0.2a

 以前のバージョンがすでにインストールされている場合は、ISM Plug in for SCOM を アンインストールのうえ、ISM Plug-in for SCOM 1.2.2 をインストールしてください。

#### 1.4.2 インストールファイルを格納する

ISM Plug-in for SCOM をインストールする Windows Server に Remote Desktop で接続 します。

インストールファイルをコピー&ペーストで接続先の Windows Server の任意のディレク トリーへ転送します。

#### 1.4.3 インストールファイルを実行する

- インストール先のWindowsServerにて「<u>1.4.2 インストールファイルを格納する</u>」で 転送したインストールファイル (ISMSCOM\_INSTALL.exe) をダブルクリックして起 動します。
- 2. インストール言語選択ダイアログボックスが表示されますので、日本語または英語を 選択し、[OK]を選択します。
- 3. インストーラーの準備が完了すると、「「次へ」を選択して、続行してください。」と表示されます。[次へ]を選択します。
- 「使用許諾契約書」画面が表示されます。内容を確認し、[同意します]にチェックを入れ、[次へ]を選択します。
- 「インストール先のフォルダー」画面が表示されます。インストール先フォルダーを変 更しない場合は、[次へ]を選択します。インストール先フォルダーを変更したい場合は、 [変更]を選択します。
- 6. [変更]を選択すると、「インストール先フォルダーの変更」画面が表示されますので、 インストールしたいフォルダーを選択し、[OK]を選択します。
- 選択したフォルダーのパスが「インストール先のフォルダー」画面に表示されます。
   パスが正しいことを確認し、[次へ]を選択します。
- 8. 「プログラムをインストールする準備ができました」画面が表示されます。[インスト ール]を選択します。
- 9. インストール完了ダイアログボックスが表示されます。[完了]を選択し、終了します。

## 1.4.4 管理パックをインポートする

- 1. SCOM を起動します。
- 左ペインの[管理] [管理パック]から右クリックして、[管理パックのインポート]を 選択します。
- 3. [追加] [ディスクから追加する]を選択します。

**『ポイント** 上記3を実行後[オンライン カタログ接続]ダイアログボックスが表示される場合があ

ります。表示された場合は[いいえ]を選択します。

- インストール先フォルダーから、[Management Packs] [Fujitsu.InfrastructureManager.mp」を選択し、[開く]を選択します。
- 5. [インストール]を選択します。
- 6. インポートが完了したら、[閉じる]を選択して終了します。

## 1.4.5 ISM Plug-in for SCOM に情報を登録する

コマンドプロンプトを用いて、ISM Plug-in for SCOM に ISM および SCOM の各種情報を 登録します。

- ISM Plug-in for SCOM をインストールした Windows Server で[コマンドプロンプト(管理者)]を起動します。
- コマンドプロンプトが起動します。以下のコマンドを入力します。
   <インストール先フォルダー名>\IsmServerConfig.exe
- 3. 以下の情報を入力します。



<アラート取得間隔>および<アラート削除間隔>は、3分から525600分または00時00分か

ら23時59分の時刻指定で設定してください。

4. "exit" コマンドで終了します。

## 2ポイント

登録した情報を変更して再設定する場合は、上記1~4の手順を実行して、再度登録して ください。

.....

#### 1.4.6 ISM Plug-in for SCOM を利用する

- 1. SCOM を起動します。
- トップの「監視」画面より、左ペインの[アクティブなアラート]を選択し、中央ペインの対象アラートを選択すると、右ペインに[アラートタスク]が表示されます。

ピポイント

ISM から検出するアラートは、ソースに[InfrastructureManager]と表示されます。 ※あらかじめ、ISM にて監視の有効化としきい値を設定した項目が検出の対象です。なお、 名前欄に表示される時刻はUTC表記であり、作成日時で表示される時刻と異なります。 ※設定方法については、『解説書』「2.3.1 監視項目/しきい値の設定」を参照してく ださい。

.....

3. [アラートタスク]直下の[Fujitsu ISM (node)]を選択すると、ISM のログイン画面が表示されます。

ピポイント

ISMに登録されていない機器のアラートを選択している場合、エラー画面が表示されます。

4. ログイン後、対象ノードの詳細画面が表示されます。

## 1.5 アンインストール

ISM Plug-in for SCOM のアンインストールは、以下の手順で行います。

- 1. SCOM を起動します。
- 2. [管理]タブを選択します。
- 3. [管理パック]を選択します。
- 4. [Fujitsu Software Infrastructure Manager] を右クリックします
- 5. コンテキストメニューから[削除]を選択して管理パックを削除します。
- ISM Plug-in for SCOM をインストールした Windows Server のコントロールパネル を開きます。
- 7. [プログラムと機能]を選択します。「プログラムのアンインストールまたは変更」画面 が表示されます。
- 8. インストールされたプログラムの一覧から[Infrastructure Manager Plug-in for Microsoft System Center Operations Manager]を選択して右クリックします。
- 9. コンテキストメニューから[アンインストール]を選択します。
- 10. ISM Plug-in for SCOM が削除されます。

## 1.6 留意事項

- ISM Plug-in for SCOM を使用するためには、ISM のご購入およびインストールが必須となります。ISM の詳細については、ISM の製品マニュアルを参照してください。 ISM がインストールされていない場合、動作しませんのであらかじめご了承ください。
- ISM Plug-in for SCOM を使用するためには、SCOM をあらかじめインストールのう え、接続可能なことが必須となります。SCOM の操作方法については、Microsoft の 製品マニュアルを参照してください。

# 2. ISM Plug-in for SCVMM 1.2.2

## 2.1 機能概要

Infrastructure Manager Plug-in for Microsoft System Center Virtual Machine Manager (ISM Plug-in for SCVMM) は、SCVMM のユーザーインターフェイスを拡張し、SCVMM 上で ISM の各種機能を提供するためのプラグインソフトウェアです。 本製品を導入することにより、SCVMM から ISM を直接利用できます。

## 2.2 パッケージ内容

本製品を展開すると、下記3つのファイルに解凍されます。

- · ISMSCVMM\_INSTALL.exe
- Readme.txt
- Readme\_en.txt

## 2.3 システム要件

ISM Plug-in for SCVMM が動作する SCVMM のシステム要件については、当社の本製品 Web サイトを参照してください。

<u>https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastr</u>

## 2.4 インストール

SCVMMに ISM Plug-in for SCVMM をインストールします。以下に、SCVMM へのイン ストール手順を説明します。

## 2.4.1 インストールの準備

SCVMMに ISM Plug-in for SCVMM をインストールします。以下に、SCVMM へのイン ストール手順を説明します。 関 ポイント

- 以降の手順を実施する前に ISM Plug-in for SCVMM をインストールする Windows Server へ OpenSSL をインストールしてください。インストールする OpenSSL のバー ジョンは、1.0.x を選択してください。
   例: 1.0.1a、1.0.2a
- 以前のバージョンがすでにインストールされている場合は、ISM Plug in for SCVMM をアンインストールのうえ、ISM Plug in for SCVMM 1.2.2 をインストールしてくだ さい。

.....

#### 2.4.2 インストールファイルを格納する

ISM Plug-in for SCVMM をインストールする Windows Server に Remote Desktop で接 続します。

インストールファイルをコピー&ペーストで接続先の Windows Server の任意のディレク トリーへ転送します。

#### 2.4.3 インストールファイルを実行する

- インストール先のWindows Server にて「<u>2.4.2 インストールファイルを格納する</u>」 で転送したインストールファイル(ISMSCVMM\_INSTALL.exe)をダブルクリック して起動します。
- 2. インストール言語選択ダイアログボックスが表示されますので、日本語または英語を 選択し、[OK]を選択します。
- 3. インストーラーの準備が完了すると、「「次へ」を選択して、続行してください。」と 表示されます。[次へ]を選択します。
- 使用許諾契約書が表示されます。内容を確認し、[同意します]にチェックを入れ、[次 へ]を選択します。
- 5. 「インストール先のフォルダー」画面が表示されます。インストール先フォルダーを 変更しない場合は、[次へ]を選択します。インストール先フォルダーを変更したい場 合は、[変更]を選択します。
- 6. [変更]を選択すると「インストール先フォルダーの変更」画面が表示されます。イン ストールしたいフォルダーを選択し、[OK]を選択します。
- 7. 選択したフォルダーのパスが「インストール先のフォルダー」画面に表示されます。 パスが正しいことを確認し、[次へ]を選択します。
- 8. 「プログラムをインストールする準備ができました」画面が表示されます。[インスト ール]を選択します。
- 9. インストールが完了するとインストール完了画面が表示されます。[完了]を選択し、

終了します。

### 2.4.4 コンソールアドインをインポートする

- 1. SCVMM にログインします。
- 2. 左ペインの[設定]を選択し、画面上のタブ[コンソールアドインのインポート]を選択し ます。
- 3. 「コンソールアドインのインポート ウィザード」ダイアログボックスが開きます。 アドインのパスを入力するため[参照]を選択します。
- インストール先フォルダーから、[Management Packs] —
   [FujitsuISMVMMPlugin.zip]を選択し、[開く]を選択します。
- 5. 「アドインの選択」画面に戻ります。[このアドインのインストールを続行する]にチ ェックをし、[次へ]を選択します。

#### **P**ポイント

「管理コンソールを明示的なWindowsの資格情報で開始したため、このアドインのイン ポートを完了するには管理コンソールを再起動する必要があります」というメッセージ が表示された場合は、[OK]を選択して閉じます。

- 6. 「設定の確認」画面が表示されます。[閉じる]を選択して終了します。
- 7. SCVMM を再起動します。

#### 2.4.5 ISM Plug-in for SCVMM に情報を登録する

コマンドプロンプトを用いて、ISM Plug-in for SCVMM に ISM および SCVMM の各種情報を登録します。

- ISM Plug-in for SCVMM をインストールした Windows Server で[コマンドプロン プト(管理者)]を起動します。
- 以下のコマンドを入力し、実行します。
   <インストール先フォルダー名>\IsmServerConfig.exe

3. 以下の情報を入力します。

Please enter the IP address or FQDN of ISM Server : <ISM の IP アドレス、または FQDN> Please enter the port number of ISM Server : <ISM のポート番号> Please enter the user name of ISM Server : <ISM のユーザー名> Please enter the password for the user name : <ISM のパスワード> Please enter the user name of SCVMM : <SCVMM のユーザー名> [INFO] Configuration file was updated successfully. Do you want to continue? [y/n] : n (n で終了)

4. "exit"コマンドで終了します。

関 ポイント

登録した情報を変更して再設定を行う場合は、上記1~4の手順を実行して、再度登録を 行います。

#### 2.4.6 ISM Plug-in for SCVMM を利用する

- 1. SCVMM を起動します。
- 左ペインの[すべてのホスト]を選択したうえで、右ペインのホスト名にカーソルを置き、右クリックします。コンテキストメニューの中から[Fujitsu ISM]を選択します。
   ※画面右上に現れる[Fujitsu ISM]のタブを選択することでも表示できます
- 3. 「Fujitsu SCVMM Plugin」のダイアログボックスが開きます。[Profile Assignment] を選択すると、ISM ログイン画面表示後、ノード情報登録画面に遷移します。

## 2.5 **アンインストール**

ISM Plug-in for SCVMM のアンインストールは、以下の手順で行います。

- 1. SCVMM にログインします。
- 2. [設定]タブを選択します。
- 3. [コンソールアドイン]を選択します。
- 4. [Infrastructure Manager Plug-in]を右クリックします。
- 5. コンテキストメニューから[削除]を選択し、アドインを削除します。
- ISM Plug-in for SCVMM をインストールした Windows Server のコントロールパネ ルを開きます。
- 7. [プログラムと機能]を選択します。「プログラムのアンインストールまたは変更」画面

が表示されます。

- インストールされたプログラムの一覧から[Infrastructure Manager Plug-in for Microsoft System Center Virtual Machine Manager]を右クリックします。
- 9. コンテキストメニューから[アンインストール]を選択します。
- 10. ISM Plug-in for SCVMM が削除されます。

## 2.6 留意事項

- ISM Plug-in for SCVMM を使用するためには、ISM のご購入およびインストールが 必須となります。ISM の詳細については、ISM の製品マニュアルを参照してくださ い。ISM がインストールされていない場合、動作しませんのであらかじめご了承くだ さい。
- ISM Plug-in for SCVMM を使用するためには、SCVMM をあらかじめインストールのうえ、接続可能なことが必須となります。SCVMM の操作方法については、 Microsoft の製品マニュアルを参照してください。

# 3. ISM Plug-in for vCenter 1.3.3

# 3.1 機能概要

Infrastructure Manager Plug-in for VMware vCenter Server (ISM Plug-in for vCenter) は、vCenter のユーザーインターフェイスを拡張し、vCenter 上で ISM の各種機能を提供 するためのプラグインソフトウェアです。

本製品を導入することにより、vCenterから ISM を直接利用できます。

# 3.2 パッケージ内容

本製品を展開すると、下記3つのファイルに解凍されます。

- · ISMvCenter\_INSTALL.exe
- Readme.txt
- Readme\_en.txt

## 3.3 システム要件

ISM Plug-in for vCenter が動作する vCenter のシステム要件については、当社の本製品 Web サイトを参照してください。

<u>https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastr</u>

## 3.4 インストール

vCenter に ISM Plug-in for vCenter をインストールします。以下に、vCenter へのインス トール手順を説明します。

### 3.4.1 インストールの準備

vCenter に ISM Plug-in for vCenter をインストールします。以下に、vCenter へのインス トール手順を説明します。

## 関 ポイント

- 以降の手順を実施する前に vCSA にインストールされた OpenSSL のバージョンが 1.0.x であることを確認してください。
   例:1.0.1a、1.0.2a
   バージョン 1.0.x 以外の OpenSSL がインストールされている場合は、バージョン 1.0.x
   の OpenSSL をインストールしてください。
- <対象ホスト>の IP アドレスを ISM の[ノード詳細]-[0S] タブの「登録 IP アドレス」 に登録してください。
- Google Chrome 85 以降、または Mozilla Firefox 81.0.1 以降を利用する場合は下記手 順を実施してください。

#### Google Chrome 85 以降を利用する場合

- 1. Google Chrome を起動します。
- 2. URL に「chrome://flags/」と入力し、[Enter]キーを押します。
- 3. 「SameSite by default by cookies」を「Disabled」へ変更します。
- 4. 画面右下の「Relaunch」ボタンを選択します。

#### Mozilla Firefox 81.0.1 以降を利用する場合

- 1. Mozilla Firefox を起動します。
- 2. URL に「about: config」と入力し、[Enter] キーを押します。
- 3. 「network.cookie.sameSite.laxByDefault」を「false」へ変更します。
- Internet Explorer を利用する場合は以下の「セキュリティ」および「プライバシー」
   設定をしてください。
  - ▶ 「セキュリティ」タブ設定
    - Internet Explorer 11 を起動し、[ツール]-[インターネットオプション]を 選択します。
    - 2. 「インターネットオプション」ダイアログボックスが表示されます。[セ キュリティ]タブを選択し、[レベルのカスタマイズ]を選択します。

- 3. 「セキュリティ設定・インターネットゾーン」ダイアログボックスが表示されます。
- 設定の[スクリプト]における、「Java アプレットのスクリプト」、「XSS フ ィルターを有効にする」、「アクティブスクリプト」、「スクリプトでのステ ータスバーの更新を許可する」の4項目にすべてを「有効にする」に設定 します。
- 5. [OK]を選択して、「セキュリティ設定 · インターネットゾーン」ダイアロ グボックスを閉じます。
- 6. [OK]を選択して[インターネットオプション]ダイアログボックスを閉じま す。
- ▶ 「プライバシー」タブ設定
  - Internet Explorer を起動し、[ツール]-[インターネットオプション]を選 択します。
  - 「インターネットオプション」ダイアログボックスが表示されます。[プ ライバシー]タブを選択し、[詳細設定]を選択します。
  - 3. 「プライバシーの詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。
  - 「自動 Cookie 処理を上書きする」チェックボックスにチェックを入れます。「ファーストパーティーの Cookie」、「サードパーティーの Cookie」の両方を「承諾する」に設定します。「常にセッション Cookie を許可する」チェックボックスにチェックを入れます。
  - 5. [OK]を選択して、「プライバシーの詳細設定」ダイアログボックスを閉じ ます。
  - [OK]を選択して[インターネットオプション]ダイアログボックスを閉じます。
  - 7. Internet Explorer を再起動します。
- ご利用されている Web ブラウザーのセキュリティ設定によっては、ISM 認証画面 でログインできないことがあります。この場合は、下記の対処を実施後、ISM 認 証画面で再度ログインしてください。

#### 例. Internet Explorer の場合

[インターネットオプション]-[セキュリティ]より、[ローカルイントラネットのサ イト]に ISM の URL を追加

### 3.4.2 インストールファイルを格納する

ISM Plug-in for vCenter をインストールする Windows Server に Remote Desktop で接続 します。

インストールファイルをコピー&ペーストで接続先の Windows Server の任意のディレク トリーへ転送します。

## 3.4.3 インストールファイルを実行する

## **(** 注意

ISM Plug-in for vCenter 1.3.1以前のバージョンを利用している場合

- 1) ismServerConfig.exe -l コマンドを実行して登録済みの設定情報を確認してくだ さい
- ismServerConfig.exe -d コマンドを実行し、登録済みの設定情報をすべて削除し てください
- 3) ISM Plug-in for vCenter 1.3.3 をインストールしてください

ISM Plug-in for vCenter 1.3.1以前はvCenterのユーザーとISMのユーザーで設定して ましたが、ISM Plug-in for vCenter 1.3.2からは、vCenterのロールとISMのユーザー で設定(\*1)するように改善しました。これによりismServerConfig.exe –a コマンドを vCenterのユーザー数回分実施する必要がなくなりました。

(\*1) 設定したvCenterのロールに属するすべてのユーザーがISMのユーザーで接続し ます。接続イメージは以下のとおりです。

#### [ISM Plug-in for vCenter 1.3.1以前]

vCenter	
ユーザー: ism1@vsphere.local ism2@vsphere.local ism3@vsphere.local	

vCenterユーザー:	ism1@vsphere.local ism2@vsphere.local	ISMユーザー:	ism-user1 ism-user2
	ism3@vsphere.local		ism-user3

vCenterユーザーごとにISMユーザーが必要であり、ism1とism-user1、ism2と ism-user2、ism3とism-user3の3回設定が必要。

#### [ISM Plug-in for vCenter 1.3.2以降]

VCe	enter	СП	
	ユーザー: ism1@vsphere.local ism2@vsphere.local ism3@vsphere.local	vCenterロール: ismRole	ISMユーザー: ism-user1
	ロール:IsmRole + ism1@vsphere.local + ism2@vsphere.local + ism3@vsphere.local		

vCenterユーザーごとにISMユーザーは必要なく、vCenterロールごとにISMユーザ ーが存在あればよく、この場合はIsmRoleとism-user1の設定1回のみ。

vCenterのロール設定は必須です。以下で設定してください。 「管理」・「アクセスコントロール」・「ロール」 詳細はVMware社のマニュアルを参照してください。

- インストール先のWindows Server にて「<u>3.4.2 インストールファイルを格納する</u>」 で転送したインストールファイル(ISMvCenter\_INSTALL.exe)をダブルクリック して起動します。
- インストール言語選択ダイアログボックスが表示されますので、日本語または英語を 選択し、[OK]を選択します。
- 3. インストーラーの準備が完了すると、「「次へ」を選択して、続行してください。」と 表示されます。[次へ]を選択します。
- 使用許諾契約書が表示されます。内容を確認し、[同意します]にチェックを入れ、[次 へ]を選択します。
- 5. 「インストール先のフォルダー」画面が表示されます。インストール先フォルダーを 変更しない場合は、[次へ]を選択します。インストール先フォルダーを変更したい場 合は、[変更]を選択します。
- 6. [変更]を選択すると、「インストール先フォルダーの変更」画面が表示されますので、 インストールしたいフォルダーを選択し、[OK]を選択します。
- 選択したフォルダーのパスが「インストール先のフォルダー」画面に表示されます。
   パスが正しいことを確認し、[次へ]を選択します。
- 8. 「プログラムをインストールする準備ができました」画面が表示されます。[インスト ール]を選択します。
- 9. インストール完了ダイアログボックスが表示されます。[完了]を選択し、終了しま

す。

**10.** 変更を反映させるため、ISM Plug-in for vCenter をインストールしたサーバーOS を 再起動してください。

#### 3.4.4 ISM Plug-in for vCenter に情報を登録する

コマンドプロンプトを用いて、ISM Plug-in for vCenter に ISM および vCenter の各種情報を登録します。

- 1. スタートメニューを右クリックし、[コマンドプロンプト(管理者)]を選択します。
- 2. コマンドプロンプトが起動します。以下のコマンドを入力し、実行します。

#### <インストール先フォルダー名>¥bin¥ismServerConfig.exe-a

3. 以下の情報を入力します。

<インストール先フォルダ名>¥bin¥ismServerConfig.exe -a Welcome to the setup wizard for ISM(Infrastructure Manager). Please enter the following information to register. Please enter a IP address or FQDN of ISM Server : **<ISMのIPアドレスまたは FQDN>** Please enter a Port Number of ISM Server : **<ISMのポート番号>** Please enter a valid user name of ISM Server : **<ISMのユーザー名>** Please enter a password for the user name : **<ISMのパスワード>** Please enter the vCenter role name that should login as **<ISM Server user name> you** specified above : **<vCenter のロール名>** 

Registration completed successfully.

## 関 ポイント

● ismServerConfig -a の"vCenter のロール名"は、以下のルールに従って設定してく ださい。

vCenter GUIの管理→ロールから、新規またはクローンで作成した場合 vCenter のロール作成時に指定したロール名を設定する。

vCenter GUIの管理→ロールに、標準で登録されているロール名を利用する場合 GUIで表示されているロールに対応する表 1"role name"を設定する。

例 1 vCenter を日本語表示で利用し、ロール"システム管理者"で設定したい場合 CLI で設定するロール名: Admin 例 2 vCenter を英語表示で利用し、ロール名"Administrator"で設定したい場合 CLIで設定するロール名: Admin

[表 1]

CLI 標準ロール設定名称	vCenter の言語ごと	この標準ロール名
"role name"	日本語	英語
Admin	システム管理者	Administrator
ReadOnly	読み取り専用	Read-only
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
VirtualMachineConsoleUser	仮想マシンコンソー	Virtual Machine
	ルユーザー	console user
InventoryService.Tagging.TaggingAdmin	管理者のタグ付け	Tagging Admin

CLI 標準ロール設定名称	vCenter の言語ごとの標準ロール名	
"role name"	ドイツ語	フランス語
Admin	Administrator	Administrateur
ReadOnly	Nur Lesen	Lecture seule
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
VirtualMachineConsoleUser	Virtual Machine	Utilisateur de
	console user	console de
		machine virtuelle
InventoryService.Tagging.TaggingAdmin	Tagging Admin	Administrateur
		de balisage

CLI 標準ロール設定名称	vCenter の言語ごと	この標準ロール名
"role name"	スペイン語	簡体字中国語
Admin	Administrador	管理员
ReadOnly	Solo lectura	只读
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
VirtualMachineConsoleUser	AutoUpdateUser	虚拟机控制台用户
InventoryService.Tagging.TaggingAdmin	Usuario de	标记管理
	consola de	
	máquina virtual	

CLI 標準ロール設定名称	vCenter の言語ごとの標準ロール名	
"role name"	繁体字中国語	韓国語
Admin	系統管理員	관리자
ReadOnly	唯讀	읽기 전용
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
VirtualMachineConsoleUser	虛擬機器主控台使用	가상 시스템 콘솔
	者	사용자
InventoryService.Tagging.TaggingAdmin	標記管理員	태그 지정 관리자

登録した情報を確認するためには以下のコマンドを実行します。

<インストール先フォルダー名>¥bin¥ismServerConfig.exe -| ISM IP address or FQDN=<ISMのIPアドレスまたはFQDN>ISM Port=<ISMのポート番号 > ISM Account=<ISMのユーザー名> vCenter role=<vCenter のロール名>

登録した情報を変更して再設定を行う場合は、以下の削除コマンドを実行した後、
 再度2.のコマンドを入力し、登録を行います。

<インストール先フォルダー名>¥bin¥ismServerConfig.exe -d Welcome to the delete wizard for ISM(Infrastructure Manager). Please enter the following information to delete. Please enter the vCenter role name : <vCenter のロール名>

 ${\tt Unregistration\ completed\ successfully}.$ 

管理者権限を持たないvCenter ユーザーの場合は、vCenterで"拡張機能"権限を割り当てる必要があります。詳細につきましては、VMwareの製品マニュアルを参照してください。

4. "exit" コマンドで終了します。

## 3.4.5 Web ブラウザーに ISM の SSL サーバー証明書をインストールする

vSphere Web Client (Flash)、または vSphere Client(HTML5)にログインする端末の Web ブラウザーに ISM の SSL サーバー証明書のインストールが必要です。

SSL サーバー証明書を設定する手順については、本手順書の「<u>付録 Web ブラウザーに SSL</u> サーバー証明書を設定する」を参照してください。

SSL サーバー証明書が設定されていない場合、ISM Plug-in 利用時にエラー画面が表示されます。

#### 3.4.6 ISM Plug-in for vCenter を利用する

以下に ISM Plug-in for vCenter の利用方法を示します。

- Web ブラウザーで vSphere Web Client (Flash)、または vSphere Client (HTML5)の URL を開き、ログインします。
- [データセンター]または[クラスタ]を選択するか、[ホストおよびクラスタ]を開き、< 対象ホスト>を選択します。
- 3. [監視] [Infrastructure Manager]を選択します。

注意

- <対象ホスト>の IP アドレスを ISM の[ノード詳細]-[OS]タブの「登録 IP アドレス」に登録してください。
- 下図のメッセージが表示される、または「監視」タブに何も表示されない場合は ISM Plugin for vCenter の設定が異なっている可能性がありますので、本手順書 「<u>3.4.4 ISM Plug-in for vCenter に情報を登録する</u>」を参考にして Plug-in for vCenter の設定を再度実施してください。

#### Access error to Infrastructure Manager

It cannot access Infrastructure Manager via the account of vCenter being logged to in now.

Please do an appropriate setting to access Infrastructure Manager with CLI of Infrastructure Manager for plug-in.

4. フレーム内に対象ホストの ISM 画面が表示されます。

#### 対象ホストが ISM に登録されている場合:

対象ホストのノード詳細が表示されます。

#### 対象ホストが ISM に登録されていない場合:

上記手順2でデータセンターまたはクラスタを選択した場合: ノードリストが表示されます。

## 3.5 アンインストール

ISM Plug-in for vCenter のアンインストールは、以下の手順で行います。

- ISM Plug-in for vCenter をインストールした Windows Server のコントロールパネル を開きます。
- 2. [プログラムと機能]を選択します。「プログラムのアンインストールまたは変更」画面 が表示されます。
- 3. インストールされたプログラムの一覧から[Infrastructure Manager Plug-in for vCenter Server]を選択して右クリックします。
- 4. コンテキストメニューから、[アンインストール]を選択して実行します。
- 5. ISM Plug-in for vCenter をインストールした Windows Server を再起動します。
- 6. ISM Plug-in for vCenter が削除されます。

## 3.6 留意事項

- ISM Plug-in for vCenter を使用するためには、ISM のご購入およびインストールが 必須となります。ISM の詳細については、ISM の製品マニュアルを参照してくださ い。ISM がインストールされていない場合、動作しませんのであらかじめご了承くだ さい。
- ISM Plug-in for vCenter を使用するためには、vCenter をあらかじめインストールの うえ、接続可能なことが必須となります。vCenter の操作方法については、VMware の製品マニュアルを参照してください。

# 4. ISM Plug-in for vCSA 2.0.0

## 4.1 機能概要

Infrastructure Manager Plug-in for VMware vCenter Server Appliance (ISM Plug-in for vCSA) は、vCSA のユーザーインターフェイスを拡張し、vCSA 上で ISM の各種機能を提供するためのプラグインソフトウェアです。

本製品を導入することにより、vCSAから ISM を直接利用できます。

# 4.2 パッケージ内容

本製品を展開すると下記3つのファイルに解凍されます。

- FJSVismPlugin-2.0.0.tar.gz
- Readme.txt
- Readme\_en.txt

## 4.3 システム要件

ISM Plug-in for vCSA が動作する vCSA のシステム要件については、当社の本製品 Web サイトを参照してください。

https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastru

## 4.4 インストール

vCSAに ISM Plug-in for vCSA をインストールします。以下に、vCSAへのインストール 手順を説明します。

**⑤**注意

ISM Plug-in for vCSAのインストールのためには、ISM-VAの再起動が必要です。 事前に、下記の設定とソフトウェアの準備が必要です。以下を参照してください。

- vCSA のSSHログインを有効化
   vCSA Webコンソールにログインし、[管理]-[デプロイ]-[システム構成]のノード
   項で対象vCSAを選択、[管理]-[設定]-[アクセス]にてSSHログインが有効になっ
   ていることを確認します。
- SSH接続をサポートしたターミナルエミュレータのインストール

● SFTP接続をサポートしたファイル転送クライアントのインストール

.....

## ポイント

- ターミナルエミュレータに表示される内容は四角枠に記載します。
- 出力表示はバージョンの違いなどによって実際の表示と異なる場合があります。

#### .....

## 4.4.1 インストールの準備

vCSA に ISM Plug-in をインストールします。以下に、vCSA へのインストール手順を説明 します。

関 ポイント

- 以降の手順を実施する前に vCSA にインストールされた OpenSSL のバージョンが 1.0.x であることを確認してください。
   例:1.0.1a、1.0.2a
   バージョン 1.0.x 以外の OpenSSL がインストールされている場合は、バージョン 1.0.x
   の OpenSSL をインストールしてください。
- <対象ホスト>の IP アドレスを ISM の[ノード詳細]-[0S] タブの「登録 IP アドレス」
   に登録してください。
- Google Chrome 85 以降、Microsoft Edge 86 以降、または Mozilla Firefox 81.0.1 以降 を利用する場合は下記手順を実施してください。

#### Google Chrome 85 以降を利用する場合

- 1. Google Chrome を起動します。
- 2. URL に「chrome://flags/」と入力し、[Enter]キーを押します。
- 3. 「SameSite by default by cookies」を「Disabled」へ変更します。
- 4. 画面右下の「Relaunch」ボタンを選択します。

### Microsoft Edge 86 以降を利用する場合

- 1. Microsoft Edge を起動します。
- 2. URL に「Edge://flags/」と入力し、[Enter]キーを押します。
- 3. 「SameSite by default by cookies」を「Disabled」へ変更します。
- 4. 画面右下の「Relaunch」ボタンを選択します。

#### Mozilla Firefox 81.0.1 以降を利用する場合

- 1. Mozilla Firefox を起動します。
- 2. URL に「about: config」と入力し、[Enter] キーを押します。
- 3. 「network.cookie.sameSite.laxByDefault」を「false」へ変更します。
- Internet Explorer を利用する場合は以下の「セキュリティ」および「プライバシー」
   設定をしてください。
  - ▶ 「セキュリティ」タブ設定
    - Internet Explorer 11 を起動し、[ツール]・[インターネットオプション]を選択します。
    - 2. 「インターネットオプション」ダイアログボックスが表示されます。[セキ ュリティ]タブを選択し、[レベルのカスタマイズ]を選択します。
    - 「セキュリティ設定・インターネットゾーン」ダイアログボックスが表示 されます。
    - 設定の[スクリプト]における、「Java アプレットのスクリプト」、「XSS フ ィルターを有効にする」、「アクティブスクリプト」、「スクリプトでのステ ータスバーの更新を許可する」の4項目にすべてを「有効にする」に設定 します。
    - 5. [OK]を選択して、「セキュリティ設定・インターネットゾーン」ダイアロ グボックスを閉じます。
    - 6. [OK]を選択して[インターネットオプション]ダイアログボックスを閉じま す。
  - ▶ 「プライバシー」タブ設定
    - 1. Internet Explorer を起動し、[ツール]-[インターネットオプション]を選択 します。
    - 「インターネットオプション」ダイアログボックスが表示されます。[プラ イバシー]タブを選択し、[詳細設定]を選択します。
    - 3. 「プライバシーの詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。
    - 「自動 Cookie 処理を上書きする」チェックボックスにチェックを入れます。「ファーストパーティーの Cookie」、「サードパーティーの Cookie」の両方を「承諾する」に設定します。「常にセッション Cookie を許可する」 チェックボックスにチェックを入れます。
    - 5. [OK]を選択して、「プライバシーの詳細設定」ダイアログボックスを閉じま す。
    - 6. [OK]を選択して[インターネットオプション]ダイアログボックスを閉じま す。
    - 7. Internet Explorer を再起動します。
  - ご利用されている Web ブラウザーのセキュリティ設定によっては、ISM 認証画面でログインできないことがあります。この場合は、下記の対処を実施後、ISM 認証画面で再度ログインしてください。

例. Internet Explorer の場合

[インターネットオプション]-[セキュリティ]より、[ローカルイントラネットのサ イト]に ISM の URL を追加

.....

### 4.4.2 ISM にインストールファイルを格納する

インストールファイルを ISM-VA へ転送します。

転送先 /Administrator/ftp

GUIでの転送方式は、『解説書』「4.22 GUIを使用したファイルアップロード」を参照してください。

#### 4.4.3 ISM に ISM Plug-in for vCSA を適用する

- ISM-VA に SSH 接続します。
   ※ターミナルエミュレータによってはセキュリティの警告メッセージが出る場合がありますが、そのまま続行してください。
- 2. administrator ユーザーでログインします。
- プラグイン適用のため、一時的に ISM サービスを停止します。
   # ismadm service stop ism
- 4. プラグイン適用コマンドを実行します。

5. プラグイン適用後、ISM を再起動します。

# ismadm power restart

### 関 ポイント

- 適用したプラグインを確認するためには以下のコマンドを実行します。

# ismadm system plugin-show
FJSVismPlugin 2.0.0
#

#### 4.4.4 ISM Plug-in for vCSA に情報の登録をする

ISM Plug-in に vCSA および ISM の各種情報を登録します。

- 1. ISM-VA に SSH 接続します。
- 2. vCSAが ISM と接続するための情報を登録します。

# pluginmgr config-add -vcip <vCSA の IP アドレス> Welcome to the setup wizard for ISM vCenter Plug-in. Please enter the following information to register. Please enter a valid user name of ISM Server : <ISM のユーザー名> Please enter a password for the user name : <ISM のパスワード> Please enter the vCenter role name that should login as <ISM Server user name> you specified above : <vCSA のロール名>

Registration completed successfully.

3. 登録した vCSA の ISM 接続設定を確認します。

```
# pluginmgr config-show-vcip <vCSAのIPアドレス>
ISM account=<ISMのユーザー名> vCenter role=<vCSA のロール名>
ISM account=<ISMのユーザー名> vCenter role=<vCSA のロール名>
```

4. 登録した vCSA の一覧を確認します。

```
# pluginmgr config-list-show
vCenter=192.168.1.20 Last Updated = July 26, 2019 1:18 AM
vCenter=BX920#S1 Last Updated = July 26, 2019 1:25 AM
vCenter=BX920#S3 Last Updated = July 26, 2019 3:40 AM
```

### 関 ポイント

● pluginmgr config-add -vcip の"vCSAのロール名"は、以下のルールに従って設定 してください。

vCSA GUI の管理→ロールから、vCSA のロールを新規またはクローンで作成した 場合

vCSAのロール作成時に指定したロール名を設定する。

vCSAGUIの管理→ロールに、標準で登録されているロール名を利用する場合

GUI で表示されているロール名に対応する CLI 標準ロール設定名称("role name") に変更してください。この対応関係は下表で確認します。

「GUIで表示されているロール名」は、「vCSAの言語ごとの標準ロール名」の該 当言語の列を確認してください。

例 1 vCSAを日本語表示で利用し、ロール"システム管理者"で設定したい場合 対応する CLI標準ロール設定名称("role name")は Admin となるため、"vCSA の ロール名"に Admin と設定してください。

**例 2 vCSA を英語表示で利用し、ロール名"Administrator"で設定したい場合** 対応する CLI 標準ロール設定名称("role name")は Admin となるため、"vCSA の ロール名"に Admin と設定してください。

[∄	Ę	1	]
	-		_

CLI 標準ロール設定名称	vCSAの言語ごとの標準ロール名	
"role name"	日本語	英語
Admin	システム管理者	Administrator
ReadOnly	読み取り専用	Read-only
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
VirtualMachineConsoleUser	仮想マシンコンソー	Virtual Machine
	ルユーザー	console user
Inventory Service. Tagging. Tagging Admin	管理者のタグ付け	Tagging Admin

CLI 標準ロール設定名称	vCSA の言語ごとの標準ロール名	
"role name"	ドイツ語	フランス語
Admin	Administrator	Administrateur
ReadOnly	Nur Lesen	Lecture seule
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
VirtualMachineConsoleUser	Virtual Machine	Utilisateur de
	console user	console de
		machine virtuelle
Inventory Service. Tagging. Tagging Admin	Tagging Admin	Administrateur
		de balisage

CLI 標準ロール設定名称	vCSA の言語ごとの標準ロール名	
"role name"	スペイン語	簡体字中国語
Admin	Administrador	管理员
ReadOnly	Solo lectura	只读
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
VirtualMachineConsoleUser	AutoUpdateUser	虚拟机控制台用户
InventoryService.Tagging.TaggingAdmin	Usuario de	标记管理
	consola de	
	máquina virtual	

CLI 標準ロール設定名称	vCSA の言語ごとの標準ロール名	
"role name"	繁体字中国語	韓国語
Admin	系統管理員	관리자
ReadOnly	唯讀	읽기 전용
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
VirtualMachineConsoleUser	虛擬機器主控台使用	가상 시스템 콘솔
VirtualMachineConsoleUser	虛擬機器主控台使用 者	가상 시스템 콘솔 사용자

● 管理者権限を持たないvCSA ユーザーの場合は、vCSAで"拡張機能"権限を割り当て る必要があります。詳細につきましては、VMwareの製品マニュアルを参照してくだ さい。

.....

#### 4.4.5 ISM Plug-in for vCSA に登録した情報を更新する

すでに ISM Plug-in に登録した vCSA および ISM の各種情報を更新するための手順を説明

```
します。
```

```
『ポイント
vCSAへの初回インストール時には、必要ありません。
```

- 1. ISM-VA に SSH 接続します。
- 2. vCSA が ISM と接続するための情報を削除します。

# pluginmgr config-del -vcip <vCSA の IP アドレス> Welcome to the setup wizard for ISM vCenter Plug-in. Please enter the following information to unregister. Please enter the vCenter role name : <vCSA のロール名>

Unregistration completed successfully.

3. vCSAが ISM と接続するための情報を登録します。

```
# pluginmgr config-add -vcip <vCSA の IP アドレス>
Welcome to the setup wizard for ISM vCenter Plug-in. Please enter the following
information to register.
Please enter a valid user name of ISM Server : <ISM のユーザー名>
Please enter a password for the user name : <ISM のパスワード>
Please enter the vCenter role name that should login as <ISM Server user name> you
specified above : <vCSA のロール名>
```

Registration completed successfully.

4. 登録した vCSAの ISM 接続設定を確認します。

# pluginmgr config-show-vcip <vCSAのIPアドレス> ISM account=<ISMのユーザー名> vCenter role=<vCSA のロール名> ISM account=<ISMのユーザー名> vCenter role=<vCSA のロール名>

5. 登録した vCSA の一覧を確認します。

```
# pluginmgr config-list-show
vCenter=192.168.1.20 Last Updated = July 26, 2019 1:18 AM
vCenter=BX920#S1 Last Updated = July 26, 2019 1:25 AM
vCenter=BX920#S3 Last Updated = July 26, 2019 3:40 AM
```

6. 「<u>4.4.6 vCSA に ISM Plug-in for vCSA をインストールする</u>」を実施します。

#### **閉ポイント**

.....

 pluginmgr config-add -vcip の"vCSAのロール名"は、以下のルールに従って設定 してください。

vCSA GUI の管理→ロールから、vCSA のロールを新規またはクローンで作成した 場合

vCSAのロール作成時に指定したロール名を設定する。

vCSAGUIの管理→ロールに、標準で登録されているロール名を利用する場合 GUIで表示されているロール名に対応する CLI標準ロール設定名称("role name") に変更してください。この対応関係は下表で確認します。

「GUIで表示されているロール名」は、「vCSAの言語ごとの標準ロール名」の該 当言語の列を確認してください。

例 1 vCSAを日本語表示で利用し、ロール"システム管理者"で設定したい場合 対応する CLI標準ロール設定名称("role name")は Admin となるため、"vCSA の ロール名"に Admin と設定してください。

**例 2 vCSA を英語表示で利用し、ロール名"Administrator"で設定したい場合** 対応する CLI標準ロール設定名称("role name")は Admin となるため、"vCSA の ロール名"に Admin と設定してください。

CLI 標準ロール設定名称	vCSAの言語ごとの標準ロール名	
"role name"	日本語	英語
Admin	システム管理者	Administrator
ReadOnly	読み取り専用	Read-only
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
VirtualMachineConsoleUser	仮想マシンコンソー	Virtual Machine
	ルユーザー	console user
InventoryService.Tagging.TaggingAdmin	管理者のタグ付け	Tagging Admin

[表 1]

CLI 標準ロール設定名称	vCSA の言語ごとの標準ロール名	
"role name"	ドイツ語	フランス語
Admin	Administrator	Administrateur
ReadOnly	Nur Lesen	Lecture seule
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
VirtualMachineConsoleUser	Virtual Machine	Utilisateur de
	console user	console de
		machine virtuelle
InventoryService.Tagging.TaggingAdmin	Tagging Admin	Administrateur
		de balisage

CLI 標準ロール設定名称	vCSAの言語ごとの標準ロール名	
"role name"	スペイン語	簡体字中国語
Admin	Administrador	管理员
ReadOnly	Solo lectura	只读
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
VirtualMachineConsoleUser	AutoUpdateUser	虚拟机控制台用户
InventoryService.Tagging.TaggingAdmin	Usuario de	标记管理
	consola de	
	máquina virtual	

CLI 標準ロール設定名称	vCSA の言語ごとの標準ロール名	
"role name"	繁体字中国語	韓国語
Admin	系統管理員	관리자
ReadOnly	唯讀	읽기 전용
AutoUpdateUser	AutoUpdateUser	AutoUpdateUser
AutoUpdateUser VirtualMachineConsoleUser	AutoUpdateUser 虛擬機器主控台使用	AutoUpdateUser 가상 시스템 콘솔
AutoUpdateUser VirtualMachineConsoleUser	AutoUpdateUser 虛擬機器主控台使用 者	AutoUpdateUser 가상 시스템 콘솔 사용자

● 管理者権限を持たないvCSA ユーザーの場合は、vCSAで"拡張機能"権限を割り当て る必要があります。詳細につきましては、VMwareの製品マニュアルを参照してくだ さい。

. . . . . . . . . .

44

#### 4.4.6 vCSA に ISM Plug-in for vCSA をインストールする

- 1. プラグインインストールコマンドを実行します。
  - # pluginmgr pkg-install -vcip くvCSAのIPアドレス>

Welcome to the install wizard for ISM vCenter Plug-in. Please enter the following information to install.

Please enter a valid user name of vCenter Server:<vCSA のユーザー名>

Please enter a password for the user name of vCenter Server: <vCSA oאמיל אינער איז א vCSA oאמיל אינער איז א vCSA oאמיל א vCSA oאמ

Installation completed successfully.

- 2. exit コマンドを入力し、ISM からログアウトします。
- 3. Web ブラウザーで vSphere Client(HTML5)の URL を開き、ログインします。
- 4. [管理]を選択します。
- 5. [ソリューション]>[クライアントプラグイン]を選択します。
- "FUJITSU Software Infrastructure Manager Plug-in"のステータスが「デプロイ済 み/有効」となっていることを確認します。

#### 4.4.7 Web ブラウザーに ISM の SSL サーバー証明書をインストールする

vSphere Client(HTML5)にログインする端末の Web ブラウザーに ISM の SSL サーバー証明 書のインストールが必要です。

SSL サーバー証明書を設定する手順については、本手順書の「<u>付録 Web ブラウザーに SSL</u> サーバー証明書を設定する」を参照してください。

SSL サーバー証明書が設定されていない場合、ISM Plug-in 利用時にエラー画面が表示されます。

#### 4.4.8 ISM Plug-in for vCSA を利用する

- 1. Web ブラウザーで vSphere Client(HTML5)の URL を開き、ログインします。
- [ホストおよびクラスタ]を選択するか、[ホストおよびクラスタ]を開き、<対象ホスト >を選択します。
- 3. [監視] [Infrastructure Manager]を選択します。

# **G**注意

<対象ホスト>の IP アドレスを ISM の[ノード詳細]-[OS]タブの「登録 IP アドレス」に登録してください。

 下図のメッセージが表示される、または「監視」タブに何も表示されない場合は ISM Plug-inの設定が異なっている可能性があります。本手順書「<u>4.4.4 ISM</u> <u>Plug-in for vCSA に情報の登録をする</u>」を参考にして Plug-in の設定を再度実施 してください。

#### Access error to Infrastructure Manager

It cannot access Infrastructure Manager via the account of vCenter being logged to in now.

Please do an appropriate setting to access Infrastructure Manager with CLI of Infrastructure Manager for plug-in.

\_\_\_\_\_

4. フレーム内に対象ホストの ISM 画面が表示されます。

#### 対象ホストが ISM に登録されている場合:

対象ホストのノード詳細が表示されます。

対象ホストが ISM に登録されていない場合:

上記手順2でデータセンターまたはクラスタを選択した場合: ノードリストが表示されます。

### 4.5 アンインストール

vCSA にインストールした ISM Plug-in for vCSA をアンインストールします。以下に、 vCSA へのアンインストール手順を説明します。

#### 4.5.1 vCSA からプラグインをアンインストールする

1. プラグインアンインストールコマンドを実行します。

# pluginmgr pkg-uninstall -vcip <vcsa ip="" の="" アドレス=""></vcsa>
Welcome to the install wizard for ISM vCenter Plug-in. Please enter the following
information to install.
Please enter a valid user name of vCenter Server $:<$ vCSA のユーザー名 $>$
Please enter a password for the user name of vCenter Server: <vcsa のパスワード=""></vcsa>
Uninstallation completed successfully.

### 関 ポイント

● プラグインの削除を確認するためには以下のコマンドを実行します。 コマンド実行の結果より 1. で指定した vCSA が存在しないことを確認します。

```
# pluginmgr pkg-install-list-show
vCenter: 192.168.1.20 Plugin Version: 2.0.0 Last Updated: July 26, 2019 1:18 AM
vCenter: BX920#S1 Plugin Version: 2.0.0 Last Updated: July 26, 2019 1:25 AM
vCenter: BX920#S3 Plugin Version: 2.0.0 Last Updated: July 26, 2019 3:40 AM
```

.....

### 4.5.2 ISM からプラグインを削除する

1. プラグイン削除のため、一時的に ISM サービスを停止します。

# ismadm service stop ism

2. プラグイン削除コマンドを実行します。

```
# ismadm system plugin-del -name <プラグイン名>
Uninstall plugin < FJSVismPlugin 2.0.0> ?
[y/n]:
```

# 関 ポイント

● プラグイン名を確認するためには以下のコマンドを実行します。

```
# ismadm system plugin-show
FJSVismPlugin 2.0.0
#
```

-----

- 3. [y]を入力して、プラグイン削除を確定させます。
- 4. プラグイン削除後、ISM を再起動します。

# ismadm power restart

## 4.6 設定のエクスポート

ISM の再構築時に同一の設定を適用することを目的として、ISM Plug-in に登録された vCSA および ISM の設定をエクスポートします。以下に、設定のエクスポート手順を説明 します。

- ISM に SSH 接続します。
   ※ターミナルエミュレータによってはセキュリティの警告メッセージが出る場合がありますが、そのまま続行してください。
- 2. administrator ユーザーでログインします。
- 3. 設定のエクスポートコマンドを実行します。

# pluginmgr config-export -vcip <vCenterの IP アドレス>

Export config file completed successfully.

4. exit コマンドを入力し、ISM からログアウトします。

#### 関 ポイント

エクスポートされた設定は、FTP領域「/Administrator/ftp」に格納されます。 必要に応じて取得ください。

GUIでの転送方式は、『解説書』「4.22 GUIを使用したファイルアップロード」を参照してください。

FTPでの転送方法は、『解説書』「2.1.2 FTPアクセス」を参照してください。

インストールファイルはバイナリモードで転送してください。

# 4.7 設定のインポート

ISM の再構築時に同一の設定を適用することを目的として、ISM Plug-in に登録された vCSA および ISM の設定をインポートします。以下に、設定のインポート手順を説明しま す。

- ISM に SSH 接続します。
   ※ターミナルエミュレータによってはセキュリティの警告メッセージが出る場合がありますが、そのまま続行してください。
- 2. administrator ユーザーでログインします。

3. 設定のインポートコマンドを実行します。

# pluginmgr config-import -vcip <vCenterの IP アドレス>

Import config file completed successfully.

4. exit コマンドを入力し、ISM からログアウトします。

### 関 ポイント

インポートされた設定は、vCSAにプラグインをインストールしない限り、設定反映されません。 GUIでの転送方式は、『解説書』「4.22 GUIを使用したファイルアップロード」を参照してください。

# 4.8 ログのエクスポート

トラブル発生時の調査資料採取を目的として、ISM Plug-in がインストールされた ISM の ログをエクスポートします。以下に、ログのエクスポート手順を説明します。

- ISM に SSH 接続します。
   ※ターミナルエミュレータによってはセキュリティの警告メッセージが出る場合がありますが、そのまま続行してください。
- 2. administrator ユーザーでログインします。
- 3. ログのエクスポートコマンドを実行します。

# pluginmgr log-export

Export log file completed successfully.

4. "exit" コマンドを入力し、ISM からログアウトします。

#### **閉ポイント**

エクスポートされたログは、FTP領域「/Administrator/ftp」に格納されます。 必要に応じて取得ください。 GUIでの転送方式は、『解説書』「4.22 GUIを使用したファイルアップロード」を参 照してください。 FTPでの転送方法は、『解説書』「2.1.2 FTPアクセス」を参照してください。 インストールファイルはバイナリモードで転送してください。

### 4.9 留意事項

- ISM Plug-in for vCSA を使用するためには、ISM のご購入およびインストールが必須となります。ISM の詳細については、ISM の製品マニュアルを参照してください。 ISM がインストールされていない場合、動作しませんのであらかじめご了承ください。
- 2. ISM Plug-in for vCSA を使用するためには、vCSA をあらかじめデプロイのうえ、利 用可能なことが必須となります。vCSA の操作方法については、VMware の製品マニ ュアルを参照してください。

# 5. ISM Management Pack 1.4.0

## 5.1 機能概要

Infrastructure Manager Management Pack for VMware vRealize Operations Manager (ISM Management Pack) は、vROpsのユーザーインターフェイスを拡張し、vROps上で ISM の各種機能を提供するためのプラグインソフトウェアです。 本製品を導入することにより、vROpsから ISM を直接利用できます。

# 5.2 パッケージ内容

本製品を展開すると、下記3つのファイルに解凍されます。

- $\cdot \quad In frastructure Manager Adapter MP {\rm -1.4.0.pak}$
- Readme.txt
- Readme\_en.txt

## 5.3 システム要件

ISM Management Pack が動作する vROps のシステム要件については、当社の本製品 Web サイトを参照してください。

https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructuresoftware/serverviewism/environment/

# 5.4 インストール

vROps に ISM Management Pack をインストールします。以下に、vROps へのインストール手順を説明します。

#### 5.4.1 インストールの準備

本製品の zip ファイルを展開し、InfrastructureManagerAdapterMP-1.4.0.pak を管理端 末のローカルディレクトリーに保存してください。

[Infrastructure Manager Heatmap] ダッシュボードを利用するために必要な構成は以下の とおりです。 ISM の準備

● ISM に監視対象ノードが登録、および監視設定が完了していること 詳細は『解説書』を参照してください。

#### 5.4.2 インストールファイルを実行する

- Web ブラウザーを起動後、「https://<vROps の IP アドレス>/ui/」に接続し、 vRealize Operations Manager Web UI に管理者としてログインします。
- 2. [管理]タブを選択します。
- 3. 左ペインから[ソリューション>リポジトリ]を選択し、[その他の Management Pack] から[追加/アップグレード]ボタンを選択します。
- 4. 「ソリューションの追加」ダイアログボックスが表示されます。[参照]ボタンを選択 します。
- 5. 「<u>5.4.1 インストールの準備</u>」で保存した PAK ファイルを選択して[開く]を選択しま す。
- 「選択したファイルはアップロードとインストールの準備が整っています。アップロードを選択して操作を続行してください。」と表示されます。[アップロード]ボタンを 選択します。
- 「エンドユーザー使用許諾契約書」画面が表示されます。使用許諾契約書の内容を確認し、同意する場合は[この契約書の条項に同意]チェックボックスを選択してチェックを入れ、[次へ]を選択します。
- インストールが開始されます。[インストールの詳細]に「(完了)」と表示されるまで お待ちください。インストールが完了したら[完了]を選択し、ダイアログボックスを 閉じます。

#### 5.4.3 ISM Management Pack に情報を登録する

ISM Management Pack に vROps および ISM の各種情報を登録します。

- 1. vRealize Operations Manager Web UI にログインします。
- 2. [管理]タブを選択します。
- 3. 左ペインから[ソリューション>その他のアカウント]を選択し、[アカウントの追加]ボ タンを選択します。
- 4. アカウントタイプの中から[Infrastructure Manager アダプタ]を選択します。
- 5. 「新しいアカウント」画面が開きます。「クラウドアカウント情報」に下記設定項目 を入力します。

設定項目	設定内容
名前( <b>必須</b> )	任意の名前を入力(例:ISM Management Pack)

説明 (任意)	説明文を入力
管理 IP( <b>必須</b> )	管理対象 ISM の IP アドレスを入力(例:192.168.100.10)
管理ポート ( <b>必須</b> )	管理対象 ISM のポート番号を入力(例: 25566)

- 6. 設定項目:「認証情報」の右側にある[新規追加]ボタンを選択します。
- 7. 「認証情報の管理」ダイアログボックスが開きます。下記設定項目を入力し、[OK]を 選択します。

設定項目	設定内容
認証情報名( <b>必須</b> )	任意の名前を入力(例:ISM)
ISM Username	管理対象 ISM のユーザー名を入力(例:administrator)
(必須)	
ISM Password	管理対象 ISM のパスワードを入力
(必須)	
vRealize Operations	
Manager Username	vROps のユーザー名を入力
(必須)	
vRealize Operations	
Manager Password	vROps のパスワードを入力
( <b>必須</b> )	

- 8. [接続をテスト]を選択します。
- 9. 「接続のテストに成功しました。」と表示されたら[OK]を選択して閉じます。
- 10. [保存]を選択します。「新しいアカウント」画面が閉じます。

#### 5.4.4 ISM Management Pack を利用する

ISM Management Pack をインストールした vROps のダッシュボード上から ISM が管理 しているノードの情報を確認する場合の手順、およびトラブルシューティングの手順につ いて説明します。

#### vROps ダッシュボードからノードを ISM で開く

#### [Infrastruture Manager]ダッシュボードを使用する場合

- 1. vRealize Operations Manager Web UI にログインします。
- 2. [ダッシュボード]を選択し、左ペインから[Infrastructure Manager]を選択します。
- [Environment Overview]ウィジェット内にある[ホストシステム]に表示された任意の オブジェクトを選択すると、[Object Relationship]ウィジェットに構成図が、[Metric Chart]にグラフが表示されます。

[Object Relationship]ウィジェット内に表示された任意のホストシステムを選択し、
 [詳細]を選択すると当該ホストの詳細画面に遷移します。

#### [In frastructure Manager Heatmap]ダッシュボードを使用する場合

- 1. vRealize Operations Manager Web UI にログインします。
- [ダッシュボード]を選択し、左ペインから[Infrastructure Manager Heatmap]を選択 します。 画面左に Heatmap ウィジェットが表示されます。 画面右にリソースの使用率・温度に応じて TOP-20 ウィジェットが表示されます。 (ISM 2.6.0.020 以降)
- 各ウィジェット内に表示された任意のオブジェクトをダブルクリックすると、当該ホ ストの詳細画面に遷移します。

#### ISM インベントリツリー

Infrastructure Manager Adapter インスタンスで管理するオブジェクトのインベントリの ツリー構成を表示します。また、表示されたインベントリツリーのオブジェクトから、オブ ジェクトの詳細を表示します。

- [環境]を選択し、左ペインで「FUJITSU Infrastructure Manager」の下の 「Infrastructure Manager」を選択すると、「管理」・「ソリューション」の 「FUJITSU Software Infrastructure Manager」の構成で追加した Infrastructure Manager Adapter インスタンスが表示されます。
- Infrastructure Manager Adapter インスタンスからドリルダウンにより、配下の各オ ブジェクトを表示します。Infrastructure Manager Adapter インスタンスのオブジェ クトの「>」を選択すると、インスタンス直下の全オブジェクトが展開されて表示さ れます。継続して直下のオブジェクト「>」を選択することで、全体のインベントリ のツリー構成を表示します。
- 左ペインでオブジェクトの行を選択すると、右ペインにオブジェクトに関する詳細情報が表示され、オブジェクトの詳細な情報を確認できます。

#### ISM Management Pack を利用したトラブルシューティング

ISM Management Pack をインストールした vROps 環境では障害が発生した物理ホストを 簡単に特定し ISM で状態確認ができます。ここでは物理ホストに障害が発生して、ISM で 状態確認するまでの作業例を紹介します。

- 1. vRealize Operations Manager Web UI にログインします。
- 2. [ダッシュボード]を選択し、左ペインから[Infrastructure Manager]を選択します。

- エラーが発生したオブジェクトを選択します。[Object Relationship]ウィジェットに 構成図が、[Metric Chart]にグラフが表示されます。
- [Object Relationship]ウィジェット内に表示された構成図の中から障害が発生したホストを選択すると上部にポップアップが表示されます。ポップアップ内の[詳細]を選択します。
- 5. [詳細]を選択すると当該ホストの環境画面に遷移します。[アクション]ボタンを選択して、[Infrastructure Manager で開く]を選択します。
- 6. ISM が新規ブラウザーウィンドウで開き、障害が発生したホストのノード画面へ自動 的に遷移します。

# 5.5 アンインストール

アンインストールは下記の手順で行います。

下記手順を実行してください。

- 1. vRealize Operations Manager Web UI にログインします。
- 2. [管理]タブを選択します。
- 3. 左ペインから[ソリューション>リポジトリ]を選択します。
- 4. [その他の Management Pack]内の[FUJITSU Software Infrastructure Manager] より[アンインストール]ボタンを選択します。
- 5. [警告]ダイアログボックスが表示されますので、[リスクを理解して同意します]にチェ ックして[OK]を選択します。
- 6. ISM Management Pack が削除されます。

### 5.6 留意事項

- ISM Management Pack を使用するためには、ISM のご購入およびインストールが必須となります。ISM の詳細については、ISM の製品マニュアルを参照してください。 ISM がインストールされていない場合、動作しませんのであらかじめご了承ください。
- ISM Management Pack を使用するためには、vROps をあらかじめデプロイのうえ、 利用可能なことが必須となります。vROpsの操作方法については、VMwareの製品 マニュアルを参照してください。

# 6. ISM Plug-in for vRO 1.1.0

### 6.1 機能概要

Infrastructure Manager Plug-in for VMware vRealize Orchestrator (ISM Plug-in for vRO) の機能として、ESXi クラスタのローリング Offline アップデートを提供します。具体的には、ESXi クラスタ内の ESXi ホストを 1 台ずつローリングで、Offline アップデートを行う機能です。なお、対象のファームウェアはファームウェアデータを利用した場合はサーバー (BIOS/iRMC) で、eLCM を利用した場合はサーバー (BIOS/iRMC/搭載 PCI カード) です。

本製品を導入することにより、vROから ISM を直接利用できます。

# 6.2 パッケージ内容

本製品を展開すると、下記3つのファイルに解凍されます。

- o11nplugin-fujitsu-ism-fwupdate.dar
- Readme.txt
- Readme\_en.txt

# 6.3 システム要件

**ISM Plug-in for vRO** が動作する **vRO** のシステム要件については、当社の本製品 Web サイトを参照してください。

<u>https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastr</u>

# 6.4 インストール

vRO に ISM Plug-in for vRO をインストールします。以下に、vRO へのインストール手順 を説明します。

#### 6.4.1 インストールの準備

本製品の zip ファイルを展開し、ollnplugin-fujitsu-ism-fwupdate.dar を管理端末のロー カルディレクトリーに保存してください。 ファームウェアデータを利用した場合、ServerView embedded Lifecycle Management (eLCM) を利用した場合において共通で必要な構成は以下のとおりです。 ISM の準備

● ISM に操作対象ノードが登録されていること

詳細は『解説書』を参照してください。

**vRO**の準備

• vCenter Server が vRO に追加されていること

詳細は『VMware vRealize Orchestrator のマニュアル』を参照してください。

vCenter Server, ESXi の準備

- vCenter Server が ESXi クラスタを管理していること
- ESXi クラスタで VMware DRS が有効になっていること
- ESXi クラスタで VMware vMotion が有効になっていること
- ESXi クラスタ内の ESXi ホストに対してメンテナンスモードを実行すると、
   ESXi クラスタ内のその他の ESXi ホストに仮想マシンがマイグレーションできること

ファームウェアデータを利用してファームウェアをアップデートする場合、以下の構成が 追加で必要です。

ISM の準備

- ISM に操作対象ノードの最新ファームウェアがインポートされていること
- ServerView Suite DVD および ServerView Suite Update DVD が ISM のリポ ジトリ領域にインポートされていること
- 管理 LAN から PXE ブートが使用できるように、ネットワーク接続および対象 サーバーの BIOS 設定を事前に完了されていること
- ネットワーク内に DHCP サーバーが存在すること

詳細は『解説書』を参照してください。

ServerView embedded Lifecycle Management (eLCM) を利用してファームウェアをアッ プデートする場合、以下の構成が追加で必要です。 iRMC の準備

- PRIMERGY サーバーに SD カードが搭載されていること
- 有効な eLCM ライセンスが登録されていること
- アップデート用の有効な構成のリポジトリサーバーにアクセスできること

詳細は下記の Fujitsu マニュアルサイトから『ServerView embedded Lifecycle Management (eLCM) x.x for iRMC Sx - Overview』(xには、最新の版数が入ります。)を参照してください。

https://support.ts.fujitsu.com/index.asp?lng=jp

参照手順

「製品を選択する」・[カテゴリから探す]を選択し、eLCMの環境を構築するサーバーを選択してください。

[Server Management Controller]からダウンロードしてください。 なお、参照手順は、予告なく変更されることがあります。

### 6.4.2 インストール

「注意

dar ファイルを VMware vRealize Orchestrator 構成インターフェイスのプラグインセク ションにインポートします。

#### Java ベースの Orchestrator レガシークライアントを利用する場合

vROのバージョンが8.0以降の場合、JavaベースのOrchestratorレガシークライアントを 利用することはできません。HTML5ベースのvRealizeOrchestratorクライアントを利用 する場合の手順を参照してください。

- 次のいずれかの URL を使用して、VMware vRealize Orchestrator インターフェイス を Web ブラウザーで開きます。
  - http://<orchestrator\_server\_DNS\_name\_or\_IP\_address>:8280
  - https://<orchestrator\_server\_DNS\_name\_or\_IP\_address>:8281
- 2. VMware vRealize Orchestrator にログインします。

#### 3. **vRO** のバージョンが 7.4/7.5 の場合

「コントロールセンターを開く」リンクを選択します。

#### vRO のバージョンが 7.6 の場合

「コントロールセンターを起動します。」リンクを選択します。

- 4. 「プラグインを管理」アイコンを選択します。
- 5. 「プラグインをインストール」セクションで、[参照]ボタンを選択します。
- 6. 「<u>6.4.1 インストールの準備</u>」で保存したインストールする「ollnplugin-fujitsu
  - ism-fwupdate.dar」ファイルを選択します。
- 7. [開く]ボタンを選択します。

- 8. [アップロード]ボタンを選択します。
- 9. [インストール]ボタンを選択します。
- 10. 手順9を実施すると、Orchestrator サーバーサービスは、2分後に自動的に再起動されます。

このため、2分後の再起動が完了してから手順11を行ってください。

- Java ベースの Orchestrator レガシークライアントにログインします。
   再起動が完了していない場合、ログインに失敗することがあります。
   この場合は、しばらく待ってから再度ログインしてください。
- ワークフローツリーに[Library] [Infrastructure Manager] [HostSystem]が表示されていることを確認してください。表示されていない場合は、「<u>6.4.3 手動インストー</u> <u>ル</u>」を行ってください。

#### HTML5 ベースの vRealize Orchestrator クライアントを利用する場合

- 次のいずれかの URL を使用して、VMware vRealize Orchestrator インターフェイス を Web ブラウザーで開きます。
  - vRO のバージョンが 7.4/7.5/7.6 の場合
    - http://<orchestrator\_server\_DNS\_name\_or\_IP\_address>:8280
    - https://<orchestrator\_server\_DNS\_name\_or\_IP\_address>:8281

#### vRO のバージョンが 8.0 以降の場合

- https://<orchestrator\_server\_FQDN>/vco
- 2. VMware vRealize Orchestrator にログインします。
- 3. vRO のバージョンが 7.4/7.5 の場合
  - 「コントロールセンターを開く」リンクを選択します。

#### vRO のバージョンが 7.6以降の場合

「コントロールセンターを起動します。」リンクを選択します。

- 4. 「Open Control Center」リンクを選択します。
- 5. 「プラグインを管理」アイコンを選択します。
- 6. 「プラグインをインストール」セクションで、[参照]ボタンを選択します。
- 「<u>6.4.1 インストールの準備</u>」で保存したインストールする「ollnplugin-fujitsuism-fwupdate.dar」ファイルを選択します。
- 8. [開く]ボタンを選択します。
- 9. [アップロード]ボタンを選択します。
- 10. [インストール]ボタンを選択します。
- 11. 手順9を実施すると、Orchestrator サーバーサービスは、2分後に自動的に再起動されます。

このため、2分後の再起動が完了してから手順11を行ってください。

- HTML5ベースの vRealize Orchestrator クライアントにログインします。
   再起動が完了していない場合、ログインに失敗することがあります。
   この場合は、しばらく待ってから再度ログインしてください。
- vRO のバージョンが 7.4/7.5 の場合
   [Workflows] > [Library]の順に移動します。
   vRO のバージョンが 7.6 の場合
   [Library] > [Workflows]の順に移動します。
   vRO のバージョンが 8.0 以降の場合
   [ライブラリ] > [ワークフロー]の順に移動します。
- 検索フィールドに「Infrastructure\_Manager」を入力し、[Enter]キーを押します。
   以下8件のワークフローが表示されることを確認してください。表示されていない場合は、「<u>6.4.3 手動インストール</u>」を行ってください。
  - Add Rest Host
  - Cluster Offline Update
  - Enter maintenance mode vMotion
  - Exit maintenance mode
  - Offline Update
  - Shut down host
  - enter maintenance mode
  - wait and exit maintenance mode

#### 6.4.3 手動インストール

ワークフローのパッケージ部分が、「<u>6.4.2.インストール</u>」に記載されているインストー ル処理によってインストールされないことがあります。この場合、パッケージファイルを 手動でインストールする必要があります。

Java ベースの Orchestrator レガシークライアントを利用する場合



vROのバージョンが8.0以降の場合、JavaベースのOrchestratorレガシークライアントを 利用することはできません。HTML5ベースのvRealizeOrchestratorクライアントを利用 する場合の手順を参照してください。

1. インストールファイルの名前を変更します。

「ollnplugin-fujitsu-ism-fwupdate.dar」から「ollnplugin-fujitsu-ism-fwupdate.zip」に変更します。

- 2. 「ollnplugin-fujitsu-ism-fwupdate.zip」を展開します。
- 3. VMware vRealize Orchestrator クライアントワークスペースの右ペインの左上にある[Import package…]ボタンを選択します。
- 手順2で展開したディレクトリー (ollnplugin-fujitsu-svsfwupdate/resources/packages)のパッケージファイルを選択します。
   ollnplugin-fujitsu-ism-fwupdate-package-1.1.0.package
- [開く]ボタンを選択します。
   「Import package」ダイアログが表示されます。
- [Import]ボタンを選択します。
   2 番目の「Import package」ダイアログが表示されます。
- 2. 全項目にチェックボックスが入っていない場合、[Select/Deselect all]チェックボック スを選択します。
   全項目にチェックボックスが入ったことを確認します。
- [Import selected elements]ボタンを選択します。
   パッケージ com.vmware.library.fujitsuISM.FWupdate が VMware vRealize
   Orchestrator クライアントワークスペースの「Packages」ビューに表示されます。
- HTML5 ベースの vRealize Orchestrator クライアントを利用する場合

### 6注意

vROのバージョンが7.4の場合、HTML5ベースのvRealize Orchestratorクライアントにて パッケージのインポートができません。JavaベースのOrchestratorレガシークライアン トを利用する場合の手順を参照してください。

.....

- インストールファイルの名前を変更します。
   「ollnplugin-fujitsu-ism-fwupdate.dar」から「ollnplugin-fujitsu-ism-fwupdate.zip」に変更します。
- 2. 「ollnplugin-fujitsu-ism-fwupdate.zip」を展開します。
- 3. vRO のバージョンが 7.5 の場合

```
[Packages]を選択します。
vROのバージョンが 7.6の場合
[Assets] > [Packages]を選択します。
vROのバージョンが 8.0の場合
[資産] > [パッケージ]を選択します。
```

- 4. [IMPORT]ボタン、または[インポート]ボタンを選択します。
- 5. 手順2で展開したディレクトリー (ol1nplugin-fujitsu-svs-

fwupdate/resources/packages)のパッケージファイルを選択します。

ollnplugin-fujitsu-ism-fwupdate-package-1.1.0.package

- [開く]ボタンを選択します。
   「Import com.vmware.library.fujitsuISM.FWupdate package」画面が表示されま
   す。
- [Package elements]タブ、または[パッケージ要素]を選択します。
   全項目にチェックボックスが入っていない場合、各項目のチェックボックスを選択します。
- [Import]ボタン、または[インポート]ボタンを選択します。
   パッケージ com.vmware.library.fujitsuISM.FWupdate が VMware vRealize
   Orchestrator クライアントワークスペースの「Packages」ビューに表示されます。

# 6.5 ファームウェアアップデートの実行方法

Cluster Offline Update ワークフローを実行して、ファームウェアをアップデートしま す。以下に、Cluster Offline Update ワークフローの実行手順を説明します。

#### 6.5.1 ワークフローを開始して情報を登録する

Cluster Offline Update ワークフローを実行した際に、ワークフローのビューでユーザーが入力するパラメーターを記載します。

Java ベースの Orchestrator レガシークライアントを利用する場合

「注意」

vROのバージョンが8.0以降の場合、JavaベースのOrchestratorレガシークライアントを 利用することはできません。HTML5ベースのvRealize Orchestratorクライアントを利用 する場合の手順を参照してください。

1 「VMware configuration」 - 「vCenter」ダイアログ

「Cluster」パラメーターに操作対象のサーバーが属している ESXi クラスタを指定します。指定方法は以下の手順です。

1.1 [Not set]ボタンを選択します。

「Select(VC:ClusterComputeResource)」画面が表示されます。

1.2 操作対象のサーバーが属している ESXi クラスタを指定します。[Note 1]

[Note 1]: ESXi クラスタが vCenter インベントリブラウザーに表示されていない場合、ワークフローツリーの「Library」-「vCenter」-「Configuration」-「Add a

vCenter Server Instance」ワークフローを実行してください。

2 「VMware configuration」・「Management Controllers details」ダイアログ
 「Settings for particular Hosts which are not configured in vCenter Server」パラ
 メーターに、操作対象サーバーの iRMC の IP アドレスおよび、ESXi ホストの情報を
 指定します。指定方法は以下の手順です。 [Note 2]

[Note 2]: 事前に、vCenter Server で ESXi ホストの「電源管理の IPMI/iLO 設定」 画面で、iRMC の情報を登録している場合は、ワークフローの処理内で自動的に iRMC の IP アドレスおよび、ESXi ホストの情報が取得されます。このため、以下の 手順の実施は不要です。

- 2.1 [Not set]ボタンを選択します。
   「Array of Composite Type(iRMC\_IPaddress:string, ESXi:VC:HostSystem):irmc\_credential」画面が表示されます。
- 2.2 「New value」の右にある[Insert value]ボタンを選択します。「Composite type」画面が表示されます。
- 2.3 「iRMC\_IPaddress」に、操作対象サーバーの iRMC の IP アドレスを入力しま す。
- ESXi」の下にある[Not set]ボタンを選択します。
   「Select(VC:HostSystem)」画面が表示されます。

 手順 2.3 で入力した iRMC の IP アドレスに対応する ESXi ホストを 「Select(VC:HostSystem)」画面で選択します。選択したあと、[Select]ボタン を選択します。

「Composite type」画面が表示され、「Composite type」画面の「ESXi」に 「Select(VC:HostSystem)」画面で選択した ESXi ホストの情報が入力されま す。

- 2.6 [Define]ボタンを選択します。「Array of Composite Type(iRMC\_IPaddress:string,ESXi:VC:HostSystem):irmc\_credential」画面が 表示されます。
  「iRMC\_IPaddress」には、手順 2.3 で入力した iRMC の IP アドレスが表示 されます。
  「ESXi」には、手順 2.5 で選択した ESXi ホストの情報が入った状態となりま す。画面上は、「HostSystem」という文字列が表示されますが、問題はありま せん。
- 2.7 操作対象サーバーの台数分だけ、手順 2.2 から 手順 2.6 を繰り返します。

 2.8 手順 2.7 を実施したあと、「Array of Composite Type(iRMC\_IPaddress:string,ESXi:VC:HostSystem):irmc\_credential」画面で [Accept]ボタンを選択します。

「Management Controllers details」ダイアログが表示されます。

2.9 「Settings for particular Hosts which are not configured in vCenter Server」 パラメーターに、操作対象の iRMC の IP アドレスと ESXi ホストの情報が 「Array[Properties]」として表示されます。

**6**注意

iRMCのIPアドレスの入力に誤りがあり、入力したiRMCのサーバーが電源オフ、ESXiホ ストのサーバーが電源オフの場合、この誤って入力したiRMCのサーバーのファームウ ェアアップデートが成功します。このため、iRMCのIPアドレスとESXiホストの入力 には十分注意してください。

3 「VMware configuration」 - 「Settings for Management Controller」ダイアログ 「If "Yes": no user interaction when changing to maintenance mode」 パラメーター

に Yes または No を指定します。

Yes ワークフローの実行中に、ESXiホストが自動的にメンテナンスモードに設定さ れます。

• No

ワークフローの実行中に、ESXiホストにメンテナンスモードを設定してよいか をユーザーがダイアログで指定する必要があります。

ダイアログでNoを指定した場合、メンテナンスモードを設定せずに次のESXi ホストの処理に移ります。

ダイアログで指定せずに5分経過した場合、自動的にNoが指定されます。

「Timeout to wait for completion of maintenance mode. (minutes)」パラメーターは ESXi ホストに対するメンテナンスモードのタイムアウト値です。

メンテナンスモードの設定中に、ESXiホストから仮想マシンが移動しない状態が、 この値よりも長く続いた場合、タイムアウトします。整数値で1から1440の範囲で 指定します。単位は分です。

4 「VMware configuration」 - 「Timeouts」ダイアログ

「Connection Timeout (seconds)」パラメーターはワークフロー内部で使用する、通信接続のタイムアウト値です。単位は秒です。

「Operation Timeout (seconds)」パラメーターはワークフロー内部で使用する、通信 処理のタイムアウト値です。単位は秒です。

5 「Infragstructure Manager configuration」-「ISM Server」ダイアログ 各項目の入力値は、以下の表のとおりです。

パラメーター名	デフォルト	説明
Infrastructure Manager	なし	ISM の IP アドレスまたは FQDN を
address (IP or FQDN)		指定します。
Infrastructure Manager	25566	ISM のポート番号を指定します。
port		
Infrastructure Manager	なし	ISM のログインユーザー名を指定しま
user		す。
Infrastructure Manager	なし	ISM のログインパスワードを指定しま
password		す。
If "Yes": the certificate is	No	Yes または Noを指定します。
accepted silently and the		Yesの場合、ISMの証明書がvROに
certificate is added to		自動的にインポートされます。
the trusted store		Noの場合、ISMの証明書が vRO に
		インポートされる際に、確認ダイアロ
		グが表示されます。
Verify whether the	Yes	Yes または Noを指定します。
matches the names		Yesの場合、ISM の証明書がターゲッ
stored inside the		トホスト名に一致するかどうか、検証
server's X.509 certificate		を行います。
		Noの場合、ISMの証明書がターゲッ
		トホスト名に一致するかどうか、検証
		を行いません。

6 「VMware configuration」 - 「eLCM mode」ダイアログ
 各項目の入力値は、以下の表のとおりです。

パラメーター名	デフォルト	説明
If "Yes" : eLCM is used	No	Yes または No を指定します。
for firmware update		Yesの場合、eLCM を利用したファー
		ムウェアアップデートを実行します。
		No の場合、ファームウェアデータを
		利用したファームウェアアップデート
		を実行します。
If "Yes" : legacy BIOS	No	Yes または No を指定します。

compatibility mode is	Yesの場合、Legacy BIOS 互換モード
used when rebooting,	で実行します。
else UEFI mode is used	Noの場合、UEFIブートモードで実
	行します。

#### HTML5 ベースの vRealize Orchestrator クライアントを利用する場合

ぼう注意
 vROのバージョンが7.4 / 7.5 / 7.6の場合、HTML5ベースのvRealize Orchestratorクラ
 イアントにてワークフローの実行ができません。JavaベースのOrchestratorレガシーク
 ライアントを利用する場合の手順を参照してください。

1 「vCenter」タブ

「Cluster」パラメーターに操作対象のサーバーが属している ESXi クラスタを指定します。指定方法は以下の手順です。

1.1 [値を検索]入力フィールドを選択します。

「VC:ClusterComputeResource を選択」画面が表示されます。

1.2 操作対象のサーバーが属している ESXi クラスタを指定します。[Note 1]

[Note 1] ESXi クラスタが vCenter インベントリブラウザーに表示されていない場合、「ライブラリ」・「ワークフロー」より「Add a vCenter Server Instance」ワーク フローを実行してください。

#### 2 [Management Controllers details] $\not P \vec{J}$

「iRMC\_IPaddress」パラメーターに、操作対象サーバーの iRMC の IP アドレス、 「ESXi」パラメーターに、ESXi ホストの情報を指定します。指定方法は以下の手順 です。 [Note 2]

[Note 2] 事前に、vCenter Server で ESXi ホストの「電源管理の IPMI/iLO 設定」画 面で、iRMC の情報を登録している場合は、ワークフローの処理内で自動的に iRMC の IP アドレスおよび、ESXi ホストの情報が取得されます。このため、以下の手順の 実施は不要です。

- 2.1 [+]ボタンを選択します。 新規ウインドウが表示されます。
- 2.2 「iRMC\_IPaddress」に、操作対象サーバーの iRMC の IP アドレスを入力しま

す。

2.3 「ESXi」の下にある[Search for value]入力フィールドに

手順 2.3 で入力した iRMC の IP アドレスに対応する ESXi ホストを入力しま す。選択したあと、[APPLY]ボタンを選択します。

「iRMC\_IPaddress」パラメーター、および「ESXi」パラメーターに入力され た値が表示されます。

.....

2.4 操作対象サーバーの台数分だけ、手順 2.1 から 手順 2.3 を繰り返します。

**与**注意

iRMCのIPアドレスの入力に誤りがあり、入力したiRMCのサーバーが電源オフ、ESXiホストのサーバーが電源オフの場合、この誤って入力したiRMCのサーバーのファームウェアアップデートが成功します。このため、iRMCのIPアドレスとESXiホストの入力には十分注意してください。

3 「Settings for Management Controller」タブ

「If "Yes": no user interaction when changing to maintenance mode」パラメーター に Yes または No を指定します。

Yesの場合、チェックボックスを選択してください。

• Yes

ワークフローの実行中に、ESXiホストが自動的にメンテナンスモードに設定されます。

• No

ワークフローの実行中に、ESXiホストにメンテナンスモードを設定してよいか をユーザーがダイアログで指定する必要があります。

ダイアログで No を指定した場合、メンテナンスモードを設定せずに次の ESXi ホストの処理に移ります。

ダイアログで指定せずに5分経過した場合、自動的にNoが指定されます。

「Timeout to wait for completion of maintenance mode. (minutes)」パラメーターは ESXi ホストに対するメンテナンスモードのタイムアウト値です。

メンテナンスモードの設定中に、ESXiホストから仮想マシンが移動しない状態が、 この値よりも長く続いた場合、タイムアウトします。整数値で1から1440の範囲で 指定します。単位は分です。

4 「Timeouts」タブ

「Connection Timeout (seconds)」パラメーターはワークフロー内部で使用する、通 信接続のタイムアウト値です。単位は秒です。

「Operation Timeout (seconds)」パラメーターはワークフロー内部で使用する、通信 処理のタイムアウト値です。単位は秒です。

5 「ISM Server」タブ

各項目の入力値は以下の表のとおりです。

パラメーター名	デフォルト	説明
Infrastructure Manager	なし	ISM の IP アドレスまたは FQDN を指
address (IP or FQDN)		定します。
Infrastructure Manager	25566	ISMのポート番号を指定します。
port		
Infrastructure Manager	なし	ISM のログインユーザー名を指定しま
user		す。
Infrastructure Manager	なし	ISM のログインパスワードを指定しま
password		す。
If "Yes": the certificate is	No	Yes または Noを指定します。
accepted silently and the		Yesの場合、ISMの証明書がvROに自
certificate is added to		動的にインポートされます。
the trusted store		Noの場合、ISM の証明書が vRO にイ
		ンポートされる際に、確認ダイアログ
		が表示されます。
Verify whether the	Yes	Yes または Noを指定します。
target nostname matches the names		Yes の場合、ISM の証明書がターゲッ
stored inside the		トホスト名に一致するかどうか、検証
server's X.509 certificate		を行います。
		Noの場合、ISM の証明書がターゲット
		ホスト名に一致するかどうか、検証を
		行いません。

### 6 「eLCM mode」タブ

各項目の入力値は以下の表のとおりです。

パラメーター名	デフォルト	説明
If "Yes" : eLCM is used	No	Yes または No を指定します。
for firmware update		Yesの場合、eLCM を利用したファーム
		ウェアアップデートを実行します。
		Noの場合、ファームウェアデータを利
		用したファームウェアアップデートを
		実行します。
If "Yes" : legacy BIOS	No	Yes または No を指定します。

compatibility mode is	Yesの場合、Legacy BIOS 互換モード
used when rebooting,	で実行します。
else UEFI mode is used	No の場合、UEFI ブートモードで実行
	します。

### 6.5.2 ワークフローを実行する

「<u>6.5.1 ワークフローを開始して情報を登録する</u>」ですべての入力フィールドとリストが入力されると、[Submit]ボタン、または「RUN」ボタンが有効になります。 [Submit]ボタン、または「RUN」ボタンを選択してワークフローを実行します。

**G**注意

Cluster Offline Update ワークフロー実行後は、Offlineアップデートで更新可能な対

.....

-----

象すべてが更新されます。

「<u>6.5.1 ワークフローを開始して情報を登録する</u>」で「If "Yes": no user interaction when changing to maintenance mode」パラメーターで「No」を指定した場合、「<u>6.5.3 ワークフローへ情報を追加登録する</u>」へ進んでください。

### 6.5.3 ワークフローへ情報を追加登録する

Cluster Offline Update ワークフローを実行後に、追加でユーザーが入力するパラメーターを記載します。

Java ベースの Orchestrator レガシークライアントを利用する場合

### 6注意

vROのバージョンが8.0以降の場合、JavaベースのOrchestratorレガシークライアントを 利用することはできません。HTML5ベースのvRealize Orchestratorクライアントを利用 する場合の手順を参照してください。

.....

1 VMware vRealize Orchestrator ワークスペースの右ペイン下部の[Logs]タブより次の メッセージが表示されていることを確認します。

If using Java based client, click the tab "My Orchestrator" (located in the upper left corner) then "Waiting for Input" (located in the right part). If using HTML5 client, click the item "Waiting for Input" under "Activity" (located in the left tree).

Then, please click the item and answer if you agree with entering to maintenance mode.

Afterwards Offline Update workflow is going to proceed.

For detailed information see manual "FUJITSU Software Infrastructure Manager Plug-in and Management Pack Setup Guide".

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\* User interaction waiting, has to be opened manually \*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

- 2 左ペインの[My Orchestrator]タブを選択します。
- 3 右ペインの[Waiting for Input」タブを選択します。
- 4 [Answer a user interaction]アイコンを選択します。
- 5 「The host will be set in maintenance mode. Are you sure?」の問いに「Yes」、または「No」を選択します。
- 6 [Submit]ボタンを選択します。

#### HTML5 ベースの vRealize Orchestrator クライアントを利用する場合

**G**注意

vROのバージョンが7.4/7.5/7.6の場合、HTML5ベースのvRealize Orchestratorクラ イアントにてワークフローの実行ができません。JavaベースのOrchestratorレガシーク ライアントを利用する場合の手順を参照してください。

- 1 VMware vRealize Orchestrator ワークスペースの右ペイン下部の[ログ]タブを選択し ます。
- 2 下記のメッセージが表示されていることを確認します。

If using Java based client, click the tab "My Orchestrator" (located in the upper left corner) then "Waiting for Input" (located in the right part).

If using HTML5 client, click the item "Waiting for Input" under "Activity" (located in the left tree).

Then, please click the item and answer if you agree with entering to maintenance mode.

Afterwards Offline Update workflow is going to proceed.

For detailed information see manual "FUJITSU Software Infrastructure Manager

Plug-in and Management Pack Setup Guide".

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\* User interaction waiting, has to be opened manually \*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

- 3 左ペインの「アクティビティ」配下の「待機中の入力」を選択します。
- 4 [回答]リンクを選択します。
- 5 「The host will be set in maintenance mode. Are you sure?」の問いに「Yes」の場合はチェックボックスにチェックを入れ、「No」の場合はチェックボックスのチェックを外したままとします。
- 6 [回答]ボタンを選択します。

#### 6.5.4 ワークフローの実行結果

#### 

vROのバージョンが8.0以降の場合、JavaベースのOrchestratorレガシークライアントを 利用することはできません。HTML5ベースのvRealizeOrchestratorクライアントを利用 する場合の手順を参照してください。

ワークフローの実行が完了すると、実行結果を示すアイコンが VMware vRealize Orchestrator ワークフローツリーの「Offline Update」または「Cluster Offline Update」のアイコンの下に表示されます。ワークフローのログは VMware vRealize Orchestrator ワークスペースの右側のペインの下部の[Logs]タブの「Messages」フ ィールドに表示されます。ワークフローの実行に問題があった場合、ワークフローの ログに、赤い文字でエラーメッセージが出力されます。ワークフローの例外メッセー ジは VMware vRealize Orchestrator ワークスペースの右側のペインの下部の [Variables]タブの「Exception」フィールドに表示されます。

# **G**注意

Cluster Offline Update ワークフロー実行後は、ISMの画面から操作対象サーバーのフ アームウェアのバージョンが最新になっているか確認してください。 最新になっていない場合は、iRMCのIPアドレスとESXiホストの組み合わせが誤って実 行された可能性があります。正しい組み合わせで、再実行してください。手順は 「<u>6.5.1ワークフローを開始して情報を登録する</u>」を参照してください。

ワークフローの実行で問題が発生した場合は、ワークフローのログにエラーメッセー ジが出力されます。メッセージの詳細は以下を確認してください。

- メッセージが[ISM]から始まる場合 ISM の REST-API のエラーメッセージです。 『ISM メッセージ集』を参照し、対処します。 例: [ISM] {"MessageInfo": [{"TimeStamp": "2018-12-21T00:22:18.167Z", "MessageId": "50060001", "API": "POST https://192.168.100.163:25566/ism/api/v2/users/login", "Message": "Login failed."}], "IsmBody": {}, "SchemaType": "https://192.168.100.163:25566/ism/schema/v1/MessageInfo-Out.0.0.1.json"} メッセージが[ISM-vRO]から始まる場合

「6.5.5 メッセージ」を参照して、対処します。

例:

[ISM-vRO] 50000009: 192.168.100.1 vMotion doesn't work or migration progress is too slow.

上記以外

```
表示されているメッセージに従って対処します。
メッセージから対処できない場合は、技術員に連絡します。
例:
```

Error in (Workflow:Cluster Offline Update / find Hosts (item4)#42) 0 hosts can be updated. You have provided not enough information. Ending workflow!

```
HTML5 ベースの vRealize Orchestrator クライアントを利用する場合
vRO のバージョンが 7.4/7.5 の場合
ワークフローの実行後、「Workflows」>「Runs」を選択します。
vRO のバージョンが 7.6 以降の場合
ワークフローの実行後、「Activity」>「Workflow Runs」を選択します。
vRO のバージョンが 8.0 の場合
ワークフローの実行後、「アクティビティ」>「ワークフローの実行」を選択しま
す。
```

実行したワークフローを選択します。 ワークフローのログは VMware vRealize Orchestrator ワークスペースの右側のペイ ンの下部の[Logs]タブの「Messages」フィールドに表示されます。ワークフローの実
行に問題があった場合、ワークフローのログに、赤い文字でエラーメッセージが出力 されます。

## 🔓 注意

Cluster Offline Update ワークフロー実行後は、ISMの画面から操作対象サーバーのフ アームウェアのバージョンが最新になっているか確認してください。 最新になっていない場合は、iRMCのIPアドレスとESXiホストの組み合わせが誤って実 行された可能性があります。正しい組み合わせで、再実行してください。手順は 「<u>6.5.1ワークフローを開始して情報を登録する</u>」を参照してください。

ワークフローの実行で問題が発生した場合は、ワークフローのログにエラーメッセー ジが出力されます。メッセージの詳細は以下を確認してください。

- メッセージが[ISM]から始まる場合
   ISM の REST-API のエラーメッセージです。 『ISM メッセージ集』を参照し、対処します。
   例:
   [ISM] {"MessageInfo": [{"TimeStamp": "2018-12-21T00:22:18.167Z", "MessageId": "50060001", "API": "POST https://192.168.100.163:25566/ism/api/v2/users/login", "Message": "Login failed."}], "IsmBody": {}, "SchemaType": "https://192.168.100.163:25566/ism/schema/v1/MessageInfo-Out.0.0.1.json"}
- メッセージが[ISM-vRO]から始まる場合

```
「<u>6.5.5 メッセージ</u>」を参照して、対処します。
```

例:

[ISM-vRO] 50000009: 192.168.100.1 vMotion doesn't work or migration progress is too slow.

● 上記以外

```
表示されているメッセージに従って対処します。
メッセージから対処できない場合は、技術員に連絡します。
例:
```

Error in (Workflow:Cluster Offline Update / find Hosts (item4)#42) 0 hosts can be updated. You have provided not enough information. Ending workflow!

### **6.5.5 メッセージ** [ISM-vRO]から始まるメッセージは以下のとおりです。

メッセージID	メッセージの出力	説明
10000001	{iRMC IP address} The	ファームウェアのアップデートが
	fimware was update success.	成功しました。
1000002	{iRMC IP address} The	すでに最新のファームウェアが適
	firmware is up to date.	用されています。
30000001	IP address was not found. Not	以下のどちらかを実施してくださ
	enough information for the	<i>د</i> ر.
	node ({vmware id}).	・ vCenter サーバーで ESXi ホス
		トに対する iRMC の情報を登録
		してください。
		・ ワークフローを実行する際の画
		面で、iRMCの IP アドレスに
		たいする ESXi ホストを指定し
		てください。
3000002	{iRMC IP address} did not	iRMCの IP アドレスが ISM に登
	exist in the Infrastructure	録されているか確認してくださ
	Manager node list. This	<i>د</i> ر.
	process is being skipped.	
5000002	{iRMC IP address} Power down	ISMからノードの状態を確認して
	timed out after waiting for	ください。
	3600s.	
50000005	{iRMC IP address} The offline	ISMのタスクの対処を行ってくだ
	firmware update task failed.	さい。
	{ISM taskid} Message : {ISM	
	task message}	
50000006	{iRMC IP address} Firmware	ISMからノードの状態を確認して
	update timed out after waiting	ください。
	for 10800s.	
50000007	Error occurred while parsing	ISMが正常に動作しているか確認
	response.	してください。

74

メッセージID	メッセージの出力	説明
5000008	(ESXi: {ESXi IP address})	・ iRMCと ESXiの IP アドレス
	Power down failed. (iRMC:	が紐づけられているかを確認し
	{iRMC IP address})	てください。
		・ ESXi ホストの通信ができるか
		確認してください。
50000009	{ESXi IP address} vMotion	メンテナンスモードの設定の完了
	doesn't work or migration	待ちでタイムアウトしました。
	progress is too slow.	パラメーター(Timeout to wait
		for completion of maintenance
		mode.)を手動でメンテナンスモー
		ドを設定した際にかかった時間+5
		分を目安に設定してください。
50000010	{iRMC IP address} There is no	<ul> <li>iRMCが eLCM を使用できる環</li> </ul>
	eLCM license or SD card. Or	境であるか確認してください。
	the Infrastructure Manager is	・ ISM が eLCM をサポートする
	an older version.	バージョンであるか確認してく
		ださい。

## 6.6 アンインストール

プラグインのアンインストール手順は『VMware vRealize Orchestrator のマニュアル』 の「プラグインのアンインストール」を参照してください。

## 6.7 留意事項

- ISM Plug-in for vRO を使用するためには、ISM のご購入およびインストールが必須 となります。ISM の詳細については、ISM の製品マニュアルを参照してください。 ISM がインストールされていない場合、動作しませんのであらかじめご了承ください。
- 2. ISM Plug-in for vRO を使用するためには、vRO があらかじめ利用可能なことが必須 となります。vRO の操作方法については、VMware の製品マニュアルを参照してく ださい。

## 7. ISM Plug-in for WAC 1.0.0 (ISM 2.6.0.010 以降)

## 7.1 機能概要

Infrastructure Manager Plug-in for Microsoft Windows Admin Center (ISM Plug-in for WAC) は、WAC のユーザーインターフェイスを拡張し、WAC 上で ISM の各種機能を提供 するためのプラグインソフトウェアです。

本製品を導入することにより、WACから ISM の機能を利用できます。

## 7.2 パッケージ内容

本製品を展開すると、下記3つのファイルに解凍されます。

- · fujitsu.sme.infrastructure-manager.1.0.0.nupkg
- Readme.txt
- Readme\_en.txt

## 7.3 システム要件

ISM Plug-in for WAC が動作する WAC のシステム要件については、当社の本製品 Web サイトを参照してください。

https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructuresoftware/serverviewism/environment/

## 7.4 インストール

WACに ISM Plug-in for WAC をインストールします。以下に、WACへのインストール手順を説明します。

#### 7.4.1 インストールファイルを格納する

ISM Plug-in for WAC をインストールする Windows Server に Remote Desktop で接続します。

インストールファイルをコピー&ペーストで接続先の Windows Server の任意のディレク トリーへ転送します。

#### 7.4.2 インストール

- 次の URL を使用して、Windows Admin Center を Web ブラウザーで開きます。
   https://<WAC\_Server\_FQDN\_or\_IP\_address>:<WAC\_Server\_Port>
- 2. 「WAC」画面右上の歯車アイコンを選択し、設定画面を表示します。
- 3. 左ペインから[ゲートウェイ>拡張]を選択します。
- 4. 右ペインで[フィード]を選択します。
- 5. 右ペインで[+追加]を選択します。
- [拡張フィードの URL またはパス]に「<u>7.4.1 インストールファイルを格納する</u>」の手順でインストールファイルを格納したディレクトリーのパスを入力し、[追加]を選択します。
- 7. 「フィード」画面の[パッケージフィード]に指定したディレクトリーが表示されていることを確認します。
- 8. [利用可能な拡張機能]を選択します。
- 9. [FUJITSU Software Infrastructure Manager]を選択します。
- 10. [インストール]を選択します。
- 11. [インストール済の拡張機能]を選択し、[FUJITSU Software Infrastructure Manager]がインストール済となっていることを確認します。

#### 7.4.3 ISM Plug-in for WAC に情報を登録する

ISM Plug-in for WACに ISM の各種情報を登録します。

- 1. 次の URL を使用して、Windows Admin Center を Web ブラウザーで開きます。
  - https://<WAC\_Server\_FQDN\_or\_IP\_address>:<WAC\_Server\_Port>
- 「WAC」画面上部の[>]を選択し、インストールされているソリューションより [FUJITSU Software Infrastructure Manager Suite]を選択します。
- 3. [+追加]ボタンを選択します。

「接続タグ」画面が開きます。

4. 下記設定項目を入力します。

設定項目	設定内容
IPアドレス( <b>必須</b> )	管理対象 ISM の IP アドレスを入力(例:192.168.100.10)
ポート番号( <b>必須</b> )	管理対象 ISM のポート番号を入力(例: 25566)
ユーザー名( <b>必須</b> )	管理対象 ISM のユーザー名を入力(例:administrator)
パスワード( <b>必須</b> )	管理対象 ISM のパスワードを入力

5. [追加]ボタンを選択します。



.....

すでに登録されている ISM の設定項目を変更する場合は、削除し再登録する必要があります。

例として ISM のパスワードを変更する際の手順を記載します。

- 1. 次の URL を使用して、Windows Admin Center を Web ブラウザーで開きます。
  - https://<WAC\_Server\_FQDN\_or\_IP\_address>:<WAC\_Server\_Port>
- 2. 「WAC」画面上部の[>]を選択し、インストールされているソリューションより [FUJITSU Software Infrastructure Manager Suite]を選択します。
- 3. 変更対象の行を選択します。
- 4. [削除]ボタンを選択します。
- 5. 「接続の削除」ウインドウより[はい]を選択します。
- ISM のパスワードを変更します。
   パスワード変更方法の詳細は『操作手順書』の「2.7.1.2 ユーザーを編集する」を
   参照してください。
- ISM で変更した情報を ISM Plug-in for WAC に再登録します。
   登録手順については、「<u>7.4.3 ISM Plug-in for WAC に情報を登録する</u>」の手順 3
   以降を参照してください。

#### 7.4.4 Web ブラウザーに ISM の SSL サーバー証明書をインストールする

WAC にログインする端末の Web ブラウザーに ISM の SSL サーバー証明書のインストールが 必要です。

SSL サーバー証明書を設定する手順については、本手順書の「<u>付録 Web ブラウザーに SSL</u> サーバー証明書を設定する」を参照してください。

SSL サーバー証明書が設定されていない場合、ISM Plug-in 利用時にエラー画面が表示されます。

#### 7.4.5 ISM Plug-in for WAC を利用する

- 1. 次の URL を使用して、Windows Admin Center を Web ブラウザーで開きます。
  - https://<WAC\_Server\_FQDN\_or\_IP\_address>:<WAC\_Server\_Port>
- 「WAC」画面上部の[>]を選択し、インストールされているソリューションより
   [FUJITSU Software Infrastructure Manager Suite]を選択します。
- 3. ISMのIPアドレスを選択します。

- 4. 「WAC」画面左のメニューから各画面へ遷移できます。
  - 概要
  - ・ ノード
  - イベント
  - ファームウェア
  - 設定

#### 「概要」画面

ISM のバージョン情報や ISM で管理しているノードのステータス情報などを WAC に表示 できます。

#### 「ノード」画面

ISM で管理しているノードの詳細情報(ハードウェア情報やノード間の親子関係など)をWACに表示できます。

#### 「イベント」画面

ISM が保持するイベント情報をWACに表示できます。また、大量にイベントがある場合、 ISM へ遷移することでローカルにエクスポートして傾向の分析や原因調査に利用できます。

#### **(**注意)

.....

WAC上で表示されるイベント情報はISMの言語設定に依存します。

そのため、WACとISMで言語設定を合わせてください。

#### 「ファームウェア」画面

ISM で管理しているノードのファームウェア情報を WAC へ表示できます。 また、ISM へ遷移することでファームウェアのアップデートができます。

## **G**注意

各画面にてISMのデータが取得できていない場合、ISMの接続情報の設定が誤っている 可能性があります。

「<u>7.4.3 ISM Plug-in for WACに情報を登録する</u>」を参考にISMの接続情報を削除後、 再登録を実施してください。

## 7.5 アンインストール

ISM Plug-in for WACのアンインストールは、以下の手順で行います。

- 1. 次の URL を使用して、Windows Admin Center を Web ブラウザーで開きます。
  - https://<WAC\_Server\_FQDN\_or\_IP\_address>:<WAC\_Server\_Port>
- 2. 「WAC」画面右上の歯車アイコンを選択し、設定画面を表示します。
- 3. 左ペインから[ゲートウェイ>拡張]を選択します。
- 4. 右ペインで[インストール済の拡張機能]を選択します。
- 5. [FUJITSU Software Infrastructure Manager]を選択し、[アンインストール]ボタン を選択します。
- [インストール済の拡張機能]の一覧より[FUJITSU Software Infrastructure Manager]が表示されないことを確認します。

## 7.6 留意事項

- ISM Plug-in for WACを使用するためには、ISMのご購入およびインストールが必須 となります。ISMの詳細については、ISMの製品マニュアルを参照してください。 ISM がインストールされていない場合、動作しませんのであらかじめご了承ください。
- ISM Plug-in for WACを使用するためには、WACをあらかじめインストールのう え、接続可能なことが必須となります。WACの操作方法については、Microsoftの製 品マニュアルを参照してください。

## 8. 最新情報

ISM Plug-in に関する最新情報については、次の Web ページを参照してください。

<u>https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastr</u>

# 付録 Web **ブラウザー**に SSL サーバー証明書を 設定する

vSphere Web Client に接続する端末に SSL サーバー証明書が設定されていない場合、ISM Plug-in 利用時にエラー画面が表示されます。このため、あらかじめ vCenter に接続する 端末に SSL サーバー証明書を設定する必要があります。 以下に Internet Explorer 11 での設定例を示します。

1. SSL サーバー証明書ファイルを準備します。

#### **P**ポイント

SSL サーバー証明書については、『解説書』「4.7.1 SSL サーバー証明書の配置」を参照のう え、vSphere Web Clientに接続する端末に、あらかじめ証明書を準備しておきます。 Firefoxをご利用の場合は、『解説書』「2.1.1 GUI」を参照してください。

- 2. Internet Explorer 11 を起動し、[ツール]-[インターネットオプション]を選択します。
- 3. 「インターネットオプション」ダイアログボックスが表示されます。[コンテンツ]タ ブを選択し、[証明書]を選択します。
- 4. 「証明書」ダイアログボックスが表示されます。[個人]タブを選択します。
- 5. [インポート]を選択します。「証明書のインポート ウィザード」ダイアログボックス が表示されます。
- 6. 「証明書のインポートウィザードの開始」画面が表示されます。[次へ]を選択しま す。
- 7. 「インポートする証明書ファイル」画面が表示されます。[参照]を選択します。
- 8. 1.で準備した[SSL サーバー証明書]ファイルを選択します。
- 9. [ファイル名]に選択した証明書のパスが表示されます。証明書のファイル名やパスに 問題ないことを確認したら[次へ]を選択します。
- 10. 「証明書ストア」画面が表示されます。[証明書をすべて次のストアに配置する]が選 択されていることを確認し、[参照]を選択します。
- 11. 「証明書ストアの選択」ダイアログボックスが表示されます。[信頼されたルート証明 機関]を選択し、[OK]を選択します。
- 12. 「証明書ストア」画面に戻ります。[次へ]を選択します。
- 13. 「証明書のインポートウィザードの完了」画面が表示されます。設定に問題がない

ことを確認してから[完了]を選択します。

- 14. 「発行者が次であると主張する証明機関(CA)から証明書をインストールしようとしています: <ISMのIPまたはホスト名>」と記載された[セキュリティ警告]ダイアログボックスが表示された場合、記載された ISMのIPまたはホスト名が正しいことを確認してから[はい]を選択します。
- 15. 「正しくインポートされました。」と表示されます。[OK]を選択して、ダイアログボ ックスを閉じます。
- 16. [閉じる]を選択して「証明書」ダイアログボックスを閉じます。
- 17. [OK]を選択して[インターネットオプション]ダイアログボックスを閉じます。
- 18. Internet Explorer 11 を再起動します。
- 19. ISM にアクセスし、「証明書のエラー」が表示されないことを確認します。

以上